

JICA 海外協力隊 OV (OB・OG) 向け [CROSSROADS]

# クロスロード

2023

別冊

特集

カモナマイタウン! – Come on-a my town! –  
地域で居場所をつくるOV



# JICA海外協力隊OV(OB・OG)の皆様へ

JICA海外協力隊としての活動を終えられた後も、さまざまな形でJICAボランティア事業にお力添えいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年3月には約2000人も隊員が全世界から引き揚げ一時帰国しました。その後、全JICA一丸となって、一時帰国した隊員、訓練を終え出発できなかった方々を一日も早く任地に送り届けることを最優先に取り組んできました。その結果、2023年9月末時点で、73カ国で1145人の隊員が任地で活動中です。

現在は、派遣中隊員数をコロナ禍前の2000人規模に戻すと共に、一人でも多くの方にJICA海外協力隊に参加いただけるよう、募集・広報活動の改善・拡充や制度の改善にも取り組んでいます。新たにInstagram(インスタグラム)上で青年海外協力隊事務局の公式アカウントを開設するなど、これまでJICA海外協力隊にあまり関心がなかった方に協力隊員の活動の様子などを発信し、より多くの方にこの事業の魅力を伝えるべく取り組んでおります。

着任後、約20の道府県を訪問させていただき、各地でOV(OB・OG)の皆様、協力隊を応援してくださっている方々と意見交換させていただきました。そうした中、課題発見・解決力、巻き込む力、へこたれない力を持つ協力隊経験者への期待がますます高まっていることを実感しています。

このような社会の期待も踏まえて、本年初めて、「帰国

隊員社会還元表彰」を開催しました(詳細はP17 Award Winners in 2023をご覧ください)。初めての募集にもかかわらず、100件を超える応募がございました。環境問題や農業、地域活性化、在留外国人や高齢者・子どもを支援する取り組み、開発途上国の発展に貢献している取り組みなど、いずれも素晴らしいものでした。私自身、協力隊経験者の一人として、帰国後もさまざまな社会課題に取り組む皆様を誇りに思いました。

青年海外協力隊事務局としても、皆様のご帰国後の活動をより一層後押しすべく、JICA海外協力隊経験者のネットワークプラットフォームとして開設したLinkedIn(リンクトイン)上でOVの皆様の活動事例などを発信したり、これまでであったOB会活動支援経費を社会還元促進費として改善したりしております。

今後とも、協力隊活動を通じて得た経験や気づきを生かして、それぞれの形で活動する皆様の思いをサポートできるような施策を検討して、日本も元気になるJICA海外協力隊を目指していきたいと考えています。新しい社会に向けての歩みをご一緒できましたら幸いです。同時に海外に挑む若者を支え、応援することにもご協力いただけますとありがたいです。

最後になりますが、皆様のますますのご活躍を祈念すると共に、JICAボランティア事業に対する変わらぬご支援をお願い申し上げ、OV向け『クロスロード』発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。



独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局長 橘 秀治

- 1997年 青年海外協力隊に参加 <インドネシア/市場調査/1996(平成8)年度3次隊>
- 1999年 国際協力機構(JICA)入構
- 2010年 米国事務所次長
- 2013年 人間開発部基礎教育第二課長
- 2016年 企画部総合企画課長 (2018年~JICA開発大学院連携準備室副室長兼務)
- 2019年 総務部審議役
- 2020年 総務部審議役/企画部イノベーション・SDGs推進室長
- 2021年 総務部審議役/次長
- 2022年12月 青年海外協力隊事務局長に就任

Photo=阿部純一(本誌)

「クロスロード」は、JICA海外協力隊員が活動を円滑に行うための情報などを提供する現役隊員向けの通常号を年10回、帰国隊員に向けた情報を提供するOV向け別冊を年1回、これからJICA海外協力隊を目指す方に向けた情報を提供する応募者向け別冊を年1回発行しています。JICA海外協力隊ウェブサイトでも公開しています。

編集・発行：独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

ウェブ版はこちら



JICA海外協力隊OV(OB・OG)向け

# クロスロード

2023

## Contents

- 3 ご挨拶
- 4 JICA海外協力隊派遣現況
- 特集
- 6 カモナマイタウン! — Come on-a my town! —
- 地域で居場所をつくるOV
- 17 Award Winners in 2023
- 22 JOCV BOOKS 協力隊経験者の著書
- 24 LinkedIn 登録案内
- 25 進路開拓インフォメーション&帰国後支援
- 26 JICA海外協力隊OV会等各種団体情報
- 32 JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ
- 33 JICA Old Volunteers' Reports
- 36 懐かしの JICA海外協力隊グッズ写真館



▶ 10



▶ 17



▶ 23



▶ 34

### 【凡例】

この号におけるJICA海外協力隊の隊員の表記は、2016年度1次隊以前の隊次は和暦を併記しています。

2016年度2次隊以降：氏名(派遣国/職種/西暦隊次)

2016年度1次隊以前：氏名<派遣国/職種/西暦(和暦)隊次>

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。

※本誌記事内の「OV」は、「Old Volunteer」の略で、OB・OG両方を指します。



### 表紙の紹介

特集「カモナマイタウン! — Come on-a my town! — 地域で居場所をつくるOV」より。

奥 結香さん<マレーシア/障害児・者支援/>2014(平成26)年度2次隊・愛知県出身>が理事長を務めるNPO法人Teto Companyが、大分県竹田市で運営する地域交流拠点「Haru+ (ハルタス)」のランチタイムの様子。この日はデイサービスを利用するお年寄りと、幼稚園が休みの園児と一緒に昼食を作り、食卓を囲んだ。

Photo=ホシカワミナコ(本誌)



# JICA海外協力隊 派遣現況

2023年9月末現在、派遣国数は73カ国で  
1145人のJICA海外協力隊員が活動中です。  
累計人数は延べ5万5844人に達しました。

※表とグラフの数値は2023年9月末現在の延べ人数  
※一般：青年海外協力隊/海外協力隊  
シニア：シニア海外協力隊  
日系一般：日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊  
日系シニア：日系社会シニア海外協力隊

## 派遣国別（派遣中）

### ■ 欧州地域

国名	一般	シニア
セルビア	6	

### ■ 中東地域

国名	一般	シニア
エジプト	27	
チュニジア	17	1
モロッコ	14	
ヨルダン	26	1

### ■ アフリカ地域

国名	一般	シニア
ウガンダ	27	3
エチオピア	1	
ガーナ	40	
ガボン	6	
カメルーン	18	
ケニア	38	
ザンビア	14	
ジブチ	7	
ジンバブエ	7	
セネガル	21	
タンザニア	10	
ナミビア	11	
ベナン	14	
ボツワナ	22	1
マダガスカル	31	
マラウイ	21	
南アフリカ共和国	8	1
モザンビーク	28	1
ルワンダ	35	

### ■ アジア地域

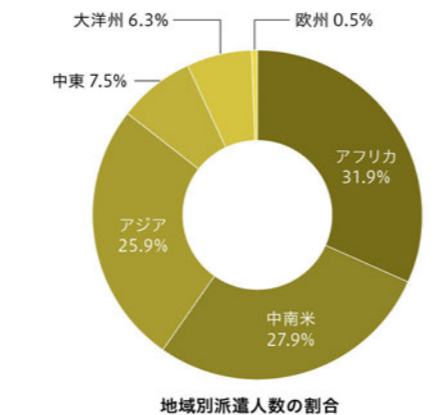
国名	一般	シニア
インド	14	
インドネシア	20	1
ウズベキスタン	10	2
カンボジア	30	
キルギス	16	
ジョージア	5	1
スリランカ	16	
タイ	20	3
タジキスタン		1
ネパール	1	
バングラデシュ	1	
東ティモール	13	
フィリピン	5	
ブータン	23	6
ベトナム	42	
マレーシア	16	7
モルディブ	1	
モンゴル	22	3
ラオス	15	3

### ■ 大洋州地域

国名	一般	シニア
サモア	2	1
ソロモン	12	
トンガ	4	1
バヌアツ	4	1
バブアニューギニア	3	
パラオ	22	3
フィジー	12	1
マーシャル	1	3
ミクロネシア		2

### ■ 中南米地域

国名	一般	シニア	日系一般	日系シニア
アルゼンチン		4	1	1
ウルグアイ		4		
エクアドル	12			
エルサルバドル	18			
キューバ		3		
グアテマラ	26	1		
コスタリカ	17			
コロンビア	8	2		
ジャマイカ	4			
セントルシア	12			
チリ	10	1		
ドミニカ共和国	15		7	
ニカラグア	10	2		
パナマ	3	1		
パラグアイ	25	3	3	
ブラジル			34	2
ペリウズ	7			
ペルー	27	2		
ポリビア	23	2	1	
ホンジュラス	14			
メキシコ	8	6		



※割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはなりません。

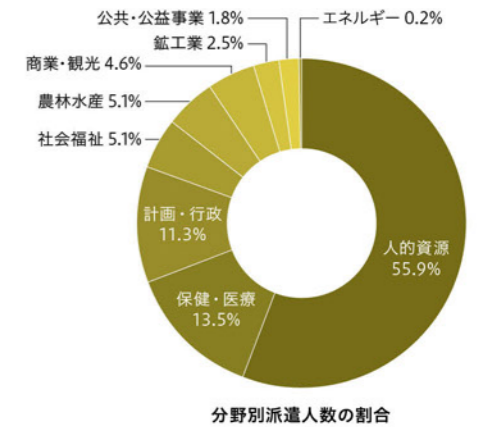
## 合計

	一般	シニア	日系一般	日系シニア	小計
派遣中 (男性/女性)	1,018 (416/602)	78 (64/14)	46 (18/28)	3 (2/1)	1,145 (500/645)
累計 (男性/女性)	47,048 (24,832/22,216)	6,651 (5,370/1,281)	1,594 (616/978)	551 (255/296)	55,844 (31,073/24,771)

※括弧内は男女の内訳（男性/女性）

## 分野別（派遣中）

分野名	一般	シニア	日系一般	日系シニア	合計
計画・行政	122	6	1		129
公共・公益事業	14	7			21
農林水産	49	9			58
鉱工業	17	12			29
エネルギー	1	1			2
商業・観光	38	14		1	53
人的資源	578	22	38	2	640
保健・医療	143	6	5		154
社会福祉	56	1	2		59



## 出身都道府県別（派遣中）

都道府県名	一般	シニア	日系一般	日系シニア	合計
北海道	34	3	5		42
青森県	8				8
岩手県	8	1			9
宮城県	14				14
秋田県	2	2			4
山形県	6	2			8
福島県	22				22
茨城県	29				29
栃木県	13	1			14
群馬県	10	1			11
埼玉県	50	4	2		56
千葉県	39	2	1		42
東京都	134	6	3		143
神奈川県	56	8	4		68
新潟県	26	2	1	1	30
富山県	15		1		16
石川県	5				5
福井県	5	1	1		7
山梨県	9			1	10
長野県	21	2	2		25
岐阜県	18	3	1		22
静岡県	28	1	2		31
愛知県	53	5	4	1	63
三重県	12	2	2		16
滋賀県	17				17
京都府	30	3	2		35
大阪府	66	5	2		73
兵庫県	59	7	4		70
奈良県	6	1			7
和歌山県	13	2			15
鳥取県	2				2
島根県	7	1			8
岡山県	16	1			17
広島県	18	2	1		21
山口県	16	1			17
徳島県	8		1		9
香川県	8	1			9
愛媛県	14		1		15
高知県	7				7
福岡県	38	1	2		41
佐賀県	5				5
長崎県	11	1			12
熊本県	11	1	1		13
大分県	7	2			9
宮崎県	10		1		11
鹿児島県	14	1			15
沖縄県	18	2	2		22

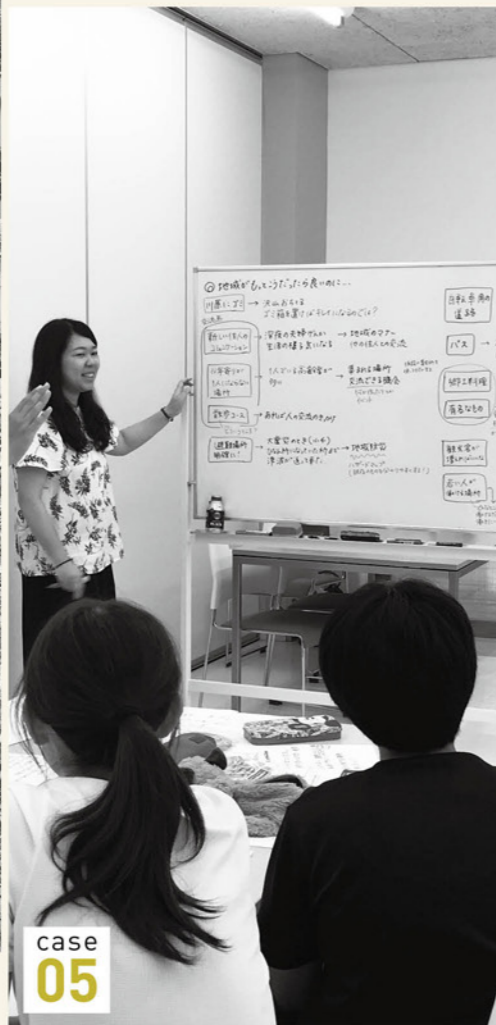


case 06

▶ P16  
誰もが集い共に作る  
都会の畑 (東京都)



わかお けんたろう  
若尾健太郎さん  
グアテマラ/村落開発普及員/  
2004(平成16)年度3次隊・  
東京都出身



case 05

▶ P15  
高校生のやりたいことを応援する  
放課後の空間 (岩手県)



ひたちなお こ  
常陸奈緒子さん  
セネガル/村落開発普及員/  
2010(平成22)年度4次隊・  
岩手県出身



case 04

▶ P14  
社会復帰を目指す大人たちへの  
生活・自立支援の場 (東京都)



たなべのぼる  
田辺 登さん  
サモア/野菜/  
2002(平成14)年度2次隊・  
福岡県出身



case 03

▶ P12-13  
外国にルーツを持つ子どもたちの  
サードプレイス (山口県)



かきやまみずほ  
柿沼瑞穂さん  
ザンビア/村落開発普及員/  
1997(平成9)年度2次隊・  
群馬県出身



case 02

▶ P10-11  
生活困窮家庭の子どもたちが  
対面・ネット上で集える場 (東京都)



くりのたいせい  
栗野泰成さん  
エチオピア/体育/  
2014(平成26)年度2次隊・  
鹿児島県出身



case 01

▶ P8-9  
地域の人々が誰でも来られる  
多機能型交流拠点 (大分県)



おくゆい か  
奥 結香さん  
マレーシア/障害児・者支援/  
2014(平成26)年度2次隊・  
愛知県出身

特集

格差が広がる日本。今必要なのは「安心できる居場所」です。自分では住む場所を決められない子どもたちや、思うような生活がしにくい障害のある方々、日本語が不自由な外国籍の方々、生活困窮者……。誰一人取り残さない社会へ、地域に根差し、みんなが安心して「ここにいてもいい」と思える居場所づくりに励むJICA海外協力隊OVを取り上げます。

Text&Photo=P6-11 ホシカワミナコ(本誌)、P12-13、P16 飯淵一樹(本誌)、P14、P15 阿部純一(本誌) 写真提供=ご協力いただいた各位

カモナマイタウン!  
— Come on-a my town! —

地域で居場所をつくるOV



①食後は皆で。片づけしながらおしゃべりタイム  
 ②平日のアソビバTetoでは、希望者が多ければ公園に行くこともある  
 ③Haru+の近所に住むパキスタン人の母子が来所すると、皆が声をかけたように集まった

## 地域の人々が誰でも来られる 多機能型交流拠点

江戸時代に岡藩の城下町として栄えた大分県竹田市。中心部の商店街にある地域交流拠点「みんなのいえカラフル」（以下、カラフル）は、奥結香さんが理事長を務めるNPO法人Teto Companyが運営する施設だ。

取材に伺った土曜日は14時までは誰でも利用できる日だったため、軒先への人がかけられるや否や、続々と利用者が入ってきた。

「小学校がある日は6時30分に起きるんだけど、今日は6時に起きた。とっても楽しみにしてたから！」と言う女の子は、じゃんけんゲームで盛り上がる小中学生の男の子らの輪に加わった。「近くに一人暮らしでここにはおしゃべりに来ているの。あなたも座ったら」と話しかけてくれたおばあさんがいるテーブルは、ご高齢の方々で早くも席が埋まりそう。他の子どもたちが大騒ぎする横で座布団やクッションに顔を埋めてゴロゴロしている女子中学生もいれば、台所でスタッフと昼食の準備にかかる男子高校生、そこに庭で採れたカボスの差し入れをするおじ



「みんなのいえカラフル」の前でスタッフと奥さん

case 01

NPO法人 Teto Company



いさんが加わって……と、皆が誰にも気兼ねせず思い思いに過ごしている。カラフルでは発達に課題のある未就学児・高校3年生に向けた放課後等デイサービス・児童発達支援「アソビバTeto」（以下、Teto）を行っており、包丁の使い方を学んでいる生徒もいる。この日の昼食のデザートは梨。そこで日頃の成果を披露すべく、真剣に梨の皮むきに挑む生徒らも。ちなみにこの日の献立は「ご飯、手羽元とナスのてりてり煮、豆腐とわかめのお吸い物、梨」で、子どもは無料、大人は300円だ。

### 協力隊時代に気づいた 連携し合える社会の必要性

20歳の時、「福祉を変えたい。そのため10年間は学びの機会にしよう」と決めてから、発達障害のある方を支援するNPOに勤めたり、特別支援学校の教員を経験したりし、27歳でJICA海外協力隊員としてマレーシアに赴任した奥さん。任期終盤には特別支援教育の大規模なフォーラムを開催し

カラフルは開所後4年間で来館者が延べ1万人を超える人気ぶりだ。コロナ禍は一時閉鎖したものの、利用者の強い要望を受け食事の提供なしで交流の場を継続させてきたという。23年4月には同じ竹田市内の山間部、荻町恵良原にもう一施設「Haru+」

（以下、ハルタス）も開所し、こちらにもぎわいを見せている。カラフル、ハルタスの一番の特徴は、専門資格を持ったスタッフがいる多機能型交流拠点であることだ。奥さんも介護福祉士と保育士や教員の免許があり、スタッフも介護福祉士、保育士、作業療法士、理学療法士、社会福祉士などの資格保持者だ。それ故、できないことや課題がそれぞれ違う利用者に対して適切な対応ができる。「地域おこし協力隊時代、保護者の方から子どもの引きこもりに関する相談や大人の発達障害についての相談をよく受けました。中には『自費でいいから子どもの療育をしてほしい』という要望もあり、放課後等デイサービスの事業にすれば国や自治体の利用料負担があるので、利用者の負担を減らせると考えました。介護保険制度に基づいたデイサービス（通所介護）事業も同じ理由です。各専門職を雇用できる体制にすることで安心して利用してもらえ、継続性のある事業にできる。法人化はそういった理由からです」

### 「ココにいていい」と 誰もが安心して思える社会へ

別の日、ハルタスにもおじゃました。こちらはしばらく空き家だった築60年の庭つき一軒家を買取り、2年かけて改築した地域交流拠点で、デイサービスの役割もあるが、休館日以外はい

つでも誰でも利用できる。「ありがたいことに、カラフルではTetoが定員に達しました。子どもたちの発達に合った支援を丁寧にしていくことも必要なので、いまカラフルで誰でも集える場合は週3日のみです。地域のお年寄りがゆったり過ごさせて、いつ誰が来てもいい場も必要と考え、ハルタスをつくりました」

朝、デイサービスの送迎車でやって来たのは、90代を中心とした利用者の方々だ。お茶を飲んで一息入れたら、ハルタスのスタッフに頼られながら皆で献立を決め、来ていた幼稚園児に野菜の切り方を教えつつ調理し、食卓を囲んだ。私が食後の片づけに席を立つとすると、「みんなでおしゃべりしながら行う」といつの間にか終わっているんだから、あなたはいいのよ。ここに座ってお茶して」と逆にいたわってもらってしまっ

お昼に赤ちゃんを連れてきたパキスタン人の女性が訪れた。近所に住んでいて2回目の利用だという。おばあさんたちも幼稚園児も興味津々に集まって来て、奥さんが翻訳アプリで間を取り持ちながら和やかな時間が過ぎていく。取材を通して印象的だったのは、利用者の方々が筆者をも自然に受け入れて、一緒に遊んだり、話の輪に入れてくれたりしたことだ。誰でも安心して「ここにいていいと思える場」を、知らぬ間に筆者自身が利用者の方々から提供され、体感していたのだ。



①利用世帯の子どもたちを招待したクリスマスイベント「クリスマス イン ザ シティ」も開催  
②オンライン上の居場所「あそぼ〜す」では、決まった時間に利用者の子どもとスタッフがオンライン上に集まる  
③④あだちキッズカフェの様子 ⑤あだちキッズカフェ外観



くりのなせい  
栗野泰成さん  
エチオピア/体育/  
2014(平成26)年度2次隊・  
鹿児島県出身

大学卒業後、愛知県内の小学校教員として勤務し、協力隊に参加。エチオピアで四肢不自由児に物乞いをさせる「レンタルチャイルド」を見かけ衝撃を受ける。自らの生い立ちも重ね合わせ、「教育格差の是正」を命題に掲げて帰国。大学院に進学し、子ども向け英会話スクールを共同起業するも、裕福な家庭の子どもばかりが習いに来ることがわかり、断念。社会経済的に困難を抱える子どもたちに、必要な支援を与え、頼れる場所をつくるよう、食材配達を媒介にした、居場所づくりを行う「一般社団法人チヨイふる」を設立。



食材配達前の準備。コンテナにその日の食材を分けて入れていく。2人一组に分かれ、ドライバーの車にコンテナを載せて配達開始

## 生活困窮家庭の子どもたちが 対面・ネット上で集える場

case  
02

一般社団法人 チヨイふる

生活困窮家庭の支援が必要な子どもたちにも、一般家庭と同じように学び・体験の機会や、ほっとできる第三の居場所を与えたい——そう考えた時、あなたならどのようなアプローチを取るだろうか。

一般社団法人チヨイふる代表理事の栗野泰成さんが東京都足立区で行うのは、「食材の無料配達をツールに、困窮子育て世帯と繋がる」ことだ。月に1回、食材の無料配達を希望する子育て世帯を訪問して食材を手渡しする「あだち・わくわく便」を行い、法人で運営する親子の居場所「あだちキッズカフェ」や、オンライン上の子ども居場所「どこでも公園 あそぼ〜す」、保護者向けにLINEを使用した生活相談支援「繋ぎケア」などの案内をしている。

ちがここの存在を知って自ら来られる確率は低いです。ね。そもそもその家庭の貧困問題を根本から解決するためにも、保護者からニーズの高い食材の無料配達を通して、こちらからお宅に伺ってまずは信頼関係を築く。その上で支援が必要な子どもにアプローチしてこうと考えたんです。

### ボランティアも活動しやすい 専用アプリを使った情報共有

「あだち・わくわく便」は第1・第3土曜日に行っているというので、ボランティアを兼ねておじやました。朝9時、足立区竹の塚にある教会に、チヨイふるの職員やボランティアスタッフが三々五々集まってくる。先に栗野さんたちが倉庫からその日に配る食材を運んできているため、集まった人が、米、野菜などの生鮮食品、加工食品、菓子、飲料、雑貨などを配達コンテナに入れていく。60センチ×40センチのコンテナいっぱいになるくらいの量があり、品数

え、手作りの昼食やおやつを用意している。送迎した子はキッズカフェには複数回来ているようで、リラックスしながらお昼やおやつを食べ、他の子どもたちやスタッフらとゲームをしたりしてはしゃぎ、夕方にスタッフの車で帰宅していった。

食材配達をしている世帯の利用料は食事代も含めて無料で、保護者の子育て相談などの場としての役割もある。「娘が保育士さんに懐いていて」と、遊びに来ている母子もいた。

### コロナ禍が転機となり 仲間が増え、事業拡大

2023年7月現在、チヨイふるが支援するのは287世帯、ボランティアは193名。子どもの居場所は2カ所あり、今年度中にもう1カ所増える予定だ。オンライン上の居場所「どこでも公園 あそぼ〜す」も、不登校児を中心に利用がある。着実に活動の幅を広げている栗野さんだが、16年に教育格差の是正というビジョンを持って協力隊から帰国した後は、大学院に行きながら別会社を起業するなど、現在の形になるまでには紆余曲折があった。

20年に食材配達をスタートしてからも「当初は友人に借りた軽トラックで、一人で10軒程度の家庭を回りました。食材は足立区から避難食の賞味期限が近いものなどを寄付して

も重量もなかなかのボリュームだ。食材の仕分け後は、各自スマートフォンに入れた専用アプリでその日に一緒に配達するスタッフと配達先の家庭の情報をチェックし、全体ミーティングで注意事項などを確認した後、配達へ。ドライバーと配達員が2人1組で5〜6軒の家庭に配達するそうで、筆者は配達員として車に乗せてもらった。

「わくわく便です」と伝えて玄関に入れてもらうと、商品の説明をしながら、雑談の中で食事の好き嫌いや家族の健康状態、子どもの学校や進学の話などを聞いていく。車に戻ってから訪問先で得た情報などを専用アプリに打ち込むことで、情報共有は完了。次のお宅へ向かった。希望する家庭の子どもたちをピックアップしてあだちキッズカフェへ送迎することもしているそうで、我々も最後のお宅で送迎を行った。

あだちキッズカフェでは、職員のほか、料理人経験のあるボランティアスタッフが中心となり、その日に使える食材を確認して献立を考

もらったりしました」と、栗野さんのボランティアベースの活動だったという。

大きな転機となったのは20年の春。新型コロナウイルスが広がる中、栗野さんが足立区内の困窮世帯にお弁当を届けるプロジェクトに参加した際、子ども食堂をしていた別団体と知り合って意気投合。一緒に活動をしていこうという話になった。

その後、生活困窮家庭にチラシを配って配達希望者を募り、SNSで食材提供を呼びかけ、企業を回って食材の量や種類を増やしていき、20年夏にボランティアスタッフと共に「あだち・わくわく便」をスタート、21年2月に法人化を果たした。

「団体名の『チヨイふる』は、生活困窮家庭の子どもたちもChoiice(「選択肢」がフルー(「たくさんある」と感じられる世の中にしたいたい)という思いで名づけました。足立区の児童扶養手当受給世帯は5500以上あり、5年後までにすべてに範囲を広げる予定です。区外にも広めていきたいので、ノウハウを他の団体にも使ってもらえるようにしながら、全国で、世界で格差是正ができたらと思っています」





①漢字のパーツを組み合わせるパズルや、学校の宿題ドリル  
②家族と帰国するため、この日が最後の出席となった子たちに修了証を授与する



本語教師にコンタクトを取って、プリントや最低限の教科書、読み物を用意するなどのアドバイスを得て実際にこぎ着けた。そして、留学生の子どもが比較的まとまっている山口大学を会場としたが、初回の参加者は0人だった。柿沼さんは「当時のメンバー3人で『今日は作戦会議だね』と言って机を囲みました」と笑う。2回目には2家族が参加するなど徐々に増え、松原加代（旧姓橋

本）さん（中華人民共和国／日本語教育／2016（平成28）年度1次隊）が教室の責任者として加わるなどして体制も整っていった。現在、教室では語学力や年齢・学年を考慮して①未就学児、②日本語基礎、③日本語会話（低学年）、④日本語会話（高学年）の4グループを設けている。基礎レベルの子などは特に丁寧に教える必要があるため、一対一や少人数の形で対応する。「一見きちんと話せているようでも、言葉を音だけで覚えていて意味がわかっていない場合もあります。いずれ勉強についていけなくなってしまうので、そうした穴を見つけて埋める作業も大切なことです」

教室でのサポートは生活上の困り事にも及び、上履きを用意したり持ち物に名前を書くことなどの基本的な学校生活の情報を教えたり、学校からの連絡事項と一緒に確認したりもする。また、時には子どもたちによる劇を催したり、親子を交えた文化祭で、保護者から母国の文化について話してもらい機会を設けたりと、ただの日本語教室の範囲にとどまらない活動を展開してきた。

メンバーの一人で、山口大学に勤務しながら教室に携わる川崎千枝見（旧姓森）さん（タイ／日本語教師／1998（平成10）年度1次隊）が「単に日本語を教えるだけの場所ではなく、そこに来たいと思えて安心

できる場所です」と話すしており、学校から帰ってきて集まり、はしゃぐ子どもたちにとって、教室の存在はなくてはならない放課後の居場所でもあるようだった。

**教育には継続した支援が必須 若い担い手の創出にも注力**

現在、教室を運営するにあたっては日本語教育や外国人への生活支援の名目での民間の助成金と、一般市民からの寄付などの支援が財源となっている。「単発のボランティアだけでは子どもたちの教育には不十分なので、軸となって長く関わってくれる人が必要です。そのため、カリキュラムやクラス編成に携わる日本語教師の方たちには手当を支払っています」と柿沼さん。

また、昨年度からはDLA（※2）を実施して、日本語でのコミュニケーション能力を客観的に把握することを図っているが、大学生や若者のボランティアにも参加してもらい、研修なども行って検査のできる人材を育成することに努めている。

「次世代のことも支援の担い手育成事業」という県の助成事業も受託して取り組んでいます。地域で教育や福祉、行政の分野を志す学生には、ぜひこの現場に参加して、外国に知ってほしいと思います」



柿沼瑞穂さん  
ザンビア／村落開発普及員／1997（平成9）年度2次隊・群馬県出身

高校時代から国際協力に関心を持ち、大学院で熱帯農業を学んだ後、協力隊でザンビアへ赴任。当初は農業分野の支援を企図していたが、現地の環境やニーズを踏まえて手芸品の販売による現金収入向上に取り組んだ。帰国後はJICA東京での国内協力員などを経て、2005年に国際協力NGOの公益財団法人オイスカへ入職し、四国研修センター所長や本部での勤務を経験。支援獲得の重要性を感じ、認定ファンドレイザー（※1）の資格を取得した。18年より夫の故郷である山口県に拠点を移してフリーのファンドレイザーとして活動し、地域の子ども食堂や青年海外協力隊山口県OB会の取り組みにも携わる。

※1…非営利団体での資金調達を行う専門家。日本ファンドレイジング協会が資格認定を行っている。



山口大学の会場の様子。教室らしい雰囲気づくりのため、ホワイトボードで仕切りを設けるなど工夫している

## 外国にルーツを持つ子どもたちのサードプレイス

「先生、こんにちは！」。時計の針が夕方4時を回ると、ランドセルを背負った小学生が、長机とホワイトボードの並ぶ会議室に集まってくる。場所は山口市内にある山口大学吉田キャンパスの、留学生寮の1階だ。いずれもネパールやバングラデシュなどの外国にルーツを持つ子どもたちで、学校が終わってから一人また一人と気ままにやってくる。

日本人スタッフのサポートの下で、ある子は漢字の偏とつくりを組み合わせてパズルに取り組み、別の子は学校の宿題を広げる。未就学の小さな子も親に連れられて来ていて、スタッフと一緒に体を動かしながら日本語の単語を学ぶゲームに興じる。

青年海外協力隊山口県OB会が主催して毎週開講している、「こどものための日本語教室」の様子である。家族帯同で山口大学大学院に留学している、春から息子を通わせているというバングラデシュ人の男性は、「ここへ来てだいぶ日本語が上手になった」と笑顔を見せた。「現在通ってきているのは山口大学

の会場で15〜25人。それ以外に山口市・防府市内の5カ所の会場やオンライン教室にも1人から数人ずつ参加している、全体で40人弱います」

そう話すのは、日本語教室の発足メンバーの一人でザンビアOVの柿沼瑞穂さん。運営のコアメンバーとしては数名の元隊員が名を連ね、隊員経験者でない日本語教師も2人携わっている。さらに大学生やシニア世代のボランティアも参加しており、会場ごとに曜日を替えて週1回ずつ教室を開いている。

### 困窮家庭の支援が発端 ただの教室ではなく「居場所」に

活動の発端は、コロナ禍で自粛ムード一色だった2020年の冬のこと。県内の在留外国人に生活支援が届かない状況に気づいた柿沼さんが山口県OB会の松浦和子副会長（ヨルダン／保健師／2006（平成18）年度1次隊）らが、県内10カ所で食料配布を始めたのがきっかけだった。

「国籍にかかわらず行政やNPOによる市民への支援策はありましたが、外国の方たちには言葉の壁などで情報が伝わりにくかったようです。そこで私たちは、技能実習生の多い地域の教会や役場、留学生のいる学校など外国人の出入りする場所へ直接行って軒先を借りて実施しました」

やって来た人々の中には子育て世帯も多かった。日本人と結婚した人もいれば、定住している自営業者や留学生など背景はさまざまだったが、話を聞く中で「子どもの日本語が上達しない」「学校になじめていない」との声が多く寄せられた。

「県内に住む外国系住民の割合は総人口の約1%で、特定の居住エリアもなく散在しているのが特徴です。行政や学校による支援が後手になるのも無理はありませんが、困っている人たちがいる以上は何かやろうと思いました」

そこで柿沼さんたちが中心となり、子ども向けの日本語教室を企画したのが21年初め。とはいえ誰も日本語教育に関する知見がなく、県内の日





ひたちな おこ 常陸奈緒子さん  
セネガル/村落開発普及員/  
2010(平成22)年度4次隊・  
岩手県出身

大学で国際協力を専攻し、将来はアフリカの開発支援に携わりたいことを決意。協力隊派遣の直前に東日本大震災に遭い、いったんは派遣を諦めるが、両親からの「行ってきなさい」との後押しを受けて参加。セネガルでは故郷のことを常に気遣いながらも、協力隊の活動をやり遂げることが故郷の釜石にも還元できる力になると信じ、地域の女性や子どもの生活上や教育支援に取り組んだ。帰国後は釜援隊(※)として約7年半勤務した後、釜援隊の任期終了に伴い、現在は釜石まちづくり株式会社に勤め、釜石市の施設運営などに携わりながら、フリーランスの立場で高校生のサポートと居場所づくり尽力している。釜石高校でのプロジェクトのほか、別団体で官民学が連携して高校生のキャリア支援を行う釜石コンパスでも活動中。



授業や部活動が終わった後、多くの高校生が774プロジェクトに集まり、思い思いの活動をしたり、常陸さんたちスタッフと語り合う姿が見られた

岩手県立釜石高校の一角にあるセミナーハウスでは、週に2回、放課後に生徒たちが気軽に集えるスペースがある。高校生と大人が力を合わせて、自分たちが使いたくなる場所を自分たちでデザインしているという思いで、「774(ななし)名無し」プロジェクト」と名づけられたこの取り組みの中心人物が、常陸奈緒子さんだ。

「同校の高校生は、授業の後は部活動、その後は塾や課題に取り組まねばならず、地域社会との接点が希薄になりがちでした。そんな高校生に地域の大人たちと日常的に関わり合う第三の居場所を提供するため、官民学連携で運営しています。ここで生徒たちはやりたいことに取り組み、私たちは助言や支援をしています。もちろん、特に目的がなくても、雑談したり、おやつを食べに来たり、バスの時間待ちをする生徒などいても、好き好きに過ごしています」

取材日も生徒たちが集い、勉強や課題の制作、進路の悩みなどを、常

陸さんを含め4人のスタッフに相談していた。

ある生徒は防災アプリを開発中で、災害発生時の逃げ遅れや、適さない場所へ避難してしまうことを防ぐため、位置情報サービス活用の可能性を探っている。避難場所を知らない人や避難訓練に参加しない人にも使ってもらえる、避難に役立つアプリの作成を目指す、東日本大震災で被災経験のあるスタッフと共に、発災時にどんな場面が考えられるかを話し合っていた。

活動を後輩に受け継ぐために、生徒が立ち上げた「夢団」は、震災伝承・防災啓発を中心に活動している。今年3月には、横浜市のイベント実行委員会から「大震災の教訓を横浜の人々に伝えてほしい」と依頼され、15人の夢団の高校生が横浜に赴き、震災伝承や防災普及を考えるパネルディスカッションなどを行った。

「普段はおっとりしている生徒も準備段階から主体的に行動していて成長を感じました。横浜では釜石以外

の高校生や大人とも交流できてよい刺激になったと思います」

常陸さんが釜石の高校生と関わることになったきっかけは、協力隊から帰国して直後の2013年から、東日本大震災で被災した釜石市の復興まちづくりを目指す「釜援隊」のメンバーとして活動してきたことにかのぼる。

「当時の高校生は、小学生で震災を体験し、国内外から受けた支援や励ましを覚えていて、まちづくりに参加したい、何かあった時に今度は自分が役に立ちたい、という気持ちを持った子が多くいました」

そんな思いを持った高校生たちの声を、復興まちづくりの議論のテーブルに乗せたい、それが常陸さんの活動の原点だった。釜援隊の任期終了後も、「絶対に続けたい」と念願したのが、活動の一環で15年から携わってきた高校生の支援だった。

「将来は、学校だけでなく、釜石のまちにも高校生の居場所をつくりたいと思っています」

## 高校生のやりたいことを 応援する放課後の空間

case 05  
774プロジェクト



たなべ のぼる 田辺登さん  
サモア/野菜/  
2002(平成14)年度2次隊・福岡県出身

大学卒業後、スポーツ雑誌・新聞社に勤務した後、調査会社情報誌の編集に携わる。協力隊ではサモアの高校で農業の授業を受け持った。サモアで人々の「分かち合いの精神」「支え合いの精神」を体験し、感銘を受ける一方、日本では高齢者の困窮や子どもの虐待事件の増加などのニュースが多く、支えを必要としている人が日本にこそいると考えるに至った。JICAの求人情報でNPO法人自立支援センターふるさとの会を知り、2006年2月に入職。生活困窮者向け支援付き住宅責任者などを経て、15年から更生支援部門の担当になり、帰る場所のない出所者らの生活再建を支援している。同会にはこれまで延べ10名の協力隊OVが入職していて、協力隊経験が生きる場面も多いという。同会では現在も協力隊OVの職員を募集している。



ふるさとの会のスローガンは「認知症になっても、がんになっても、障害があっても、家族やお金がなくとも、地域で孤立せず最期まで暮らせるように」。同僚の方々も田辺さん(左端)

## 社会復帰を目指す大人たちへの 生活・自立支援の場

case 04  
NPO法人自立支援センターふるさとの会

かつて「山谷のドヤ街」と呼ばれた東京都台東区の北東部に、NPO法人自立支援センターふるさとの会がある。パブル崩壊以降、職を失い、故郷とも縁が切れた路上生活者に対して支援を行ってきた。現在、都内5区で計26カ所の施設を持ち、生活困窮者に住まいを提供し、日常生活や就労の支援を行っている。

田辺登さんは、同会で更生保護を担当して8年目になる。罪を犯して服役した方などの自立を目指し、住まいや生活、就労の支援を原則、6カ月間を限度に行っているが、本人が望めば、同会の多様な支援プログラムにつなぎ、一生のつき合いになることもある。

「犯罪の多くは、生活の困窮による窃盗の類いです。出所後も前科があることなどで引き受け先がなく、行き場を失ってしまった方々です。彼らが我々の施設を退所した後も、いかに地域とつながることができかねるかを一緒に考え、歩んでいく仕事です」

しかし社会復帰は一筋縄ではいか

ない。世間から差別され、元をたどれば生育環境にも問題があった人も多いからだ。「福祉からも、社会からも受け入れられず、心に二重のパリアがあり、職員に対して心を閉ざしてしまう人もいます。信頼してもらうまでには時間がかかります」。

田辺さんは「自分自身にも長所と短所があって、でこぼこしている。それを自覚し、支援する側とされる側ではなく、一緒にどうやって人生を進めていくか、という姿勢で臨むことが大切」だという。

利用者の背景を見る視点は、協力隊時代のサモアでの経験が生かされているという。

「サモアの子どもたちが缶や瓶をどこにでも捨てているので注意したら、『土に溶けないの?』と聞かれました。彼らは食事をやる皿が木の葉だったから、捨てれば土に返る。それと同じ感覚で捨てていたので。自分の価値観で善悪を決めず、背景を見ないと本質はわからないと思いました。犯罪者に対して、司法は事

件を見て裁くけれど、私たち福祉の立場は、その人がそこに至る背景を理解することが大切だと思います」

印象的な元利用者がある。貧困家庭で育ち、反社会組織に所属して、実に13回の服役を経験した方だ。70歳で同会の施設に入所し支援を受け、退所後はアパートへ入居した。施設に居た時と同じように、アパートの前のゴミ拾いや掃除をしているうち、近所の人とも親しくなり、今ではおかずのお裾分けをもらったり、子どもたちと遊んだりして、地域に溶け込んでいくという。

「その方から、ふるさとの会に出会って、5年も刑務所に戻らないでいられることに感謝している、と近況報告をもらいました。こうした方の存在が、私のやりがいになっています」

同会では、田辺さんのほか、佐藤信希さん(東ティモール/料理/2016年度3次隊)、佐藤信子さん(スリランカ/美容師/1989(平成元)年度3次隊)も現在、日常生活支援住居施設で活躍している。





# Award Winners in 2023

— 表彰者 —

第1回JICA海外協力隊 帰国隊員社会還元表彰をはじめ、  
2023年中に表彰を受けた協力隊OVをご紹介します。

協力隊として養った力は、帰国後も社会の課題を解決する力として生かされています。

## 第1回JICA海外協力隊 帰国隊員社会還元表彰

とくしま ゆたか  
**徳島 泰さん**  
(フィリピン/デザイン/  
2012(平成24)年度1次隊・京都府出身)  
インスタリム株式会社 代表取締役CEO

受賞理由: 世界初となる義足の3D製造ソリューションの開発に携わり、社会参加が阻まれている世界中の人々を救う取り組みを実現。その独創性とインパクトの大きさが評価されて大賞に選出。  
プロフィール: 医療機器メーカーの工業デザイナーを経て、協力隊に参加。ものづくり工房「FabLab」を設立し、帰国後、貧困層にも手が届く低コストの3D義足を開発。2017年にインスタリム設立。



大賞

フィリピンで「3Dプリンターで義足を作れないか」と聞かれたのが起業のきっかけです。隊員時代に一生をかけてやりたいと思える仕事に出会えました。世界には義肢器具を買えない人が9000万人もいて、この課題を「3Dプリンティング×AIテクノロジー」という新技術で解決すべく、フィリピン、インドから販売を始め、他国にも事業を拡大。ウクライナの人々の支援にも取り組んでいます。

かとう なほ  
**加藤 菜穂さん** (旧姓 梅谷) さん  
(ラオス/コミュニティ開発/  
2017年度3次隊・東京都出身)  
siimee (シーミー) 代表・デザイナー

受賞理由: ラオスの伝統織物を使い、顧客視点による高い付加価値を売りとする事で事業の持続性を担保し、生産者の収入向上と事業継承に取り組む。帰国後のリスキリングも後進のモデルに。  
プロフィール: 商社勤務を経て、協力隊に参加。ラオスの伝統的な織物や草木染の技術による製品開発に取り組む。帰国後服飾の専門学校でデザインや裁縫を学び、2021年にsiimeeを創設。



アントレプレナーシップ賞

「旅するように、生きる服」をコンセプトに、手紡ぎや手織り、草木染の布から服を作っています。協力隊の2年間は、伝統的な手仕事で作られた布を魅力的な形で販売する方法を探り、いわば「種まき」の期間でした。帰国後は、私自身のスキルアップを経て起業。質の高い製品作りを極め、支援としてではなく、長く着たいと思ってもらえる服を目指しています。



わかお けんたろう  
**若尾 健太郎さん**  
グアテマラ/村落開発普及員/  
2004(平成16)年度3次隊・東京都出身

大学卒業後、IT企業での勤務を経て協力隊に参加。2005年に派遣されたグアテマラの農山村で生活向上のため活動し、当時発生したハリケーン被害に際しては、復興支援のため植林プロジェクトを主導した。現地の農村コミュニティでの人間関係に引かれ、帰国後の08年から群馬県のNPO法人自然塾寺子屋に3年間勤務し、国際協力や農業の分野で経験を積む。並行して高崎経済大学大学院の修士課程で地域政策について学び、12年に地元・西東京市へ戻って株式会社ユニココを起業。代表取締役を務める。



青年から社会人、高齢者までさまざまな人が一緒に農作業を行う。作業の合間の休憩では、持ち寄りのお菓子や飲み物を前に会話にも花が咲く

西東京市の閑静な住宅街に、「みんなの畑」と名づけられた30メートル四方ほどの農園がある。各種の野菜やハーブ、花などが植えられていて、毎週水曜日の午前中に人々が集まって農作業にいそしむ。農園の運営団体「ノウマチ」でコーディネーターを引き受けているのは、グアテマラOVの若尾健太郎さんが立ち上げた株式会社ユニココだ。

「みんなの畑のテーマは『ごちゃまぜな農体験』。年会費5000円で、近隣の高齢者や引きこもりから社会復帰を図る方、就労支援プログラムを受ける生活困窮者や求職者などさまざまな背景の人がメンバーになっています。さらに体験料200円で、誰でも見学・参加できます」

また、障害者の働く場づくりとして就労支援施設などを通じて作業を依頼しており、それらの団体に委託料を支払っている。「この畑を地域の人々が自由に来られるサードプレイス(※)にしてほしい」と話す。

「任地の村では、農業を中心に人々がつながり合って暮らしていました。一方、地元の西東京市では生産緑地が減り、住民間の関わりも希薄化し、私が育ってきた原風景が失われつつありました」。そこで帰属する地域を元気にしたいとの思いから、国内

「そんな若尾さんの取り組みの原点は、協力隊時代の経験にある。」「任地の村では、農業を中心に人々がつながり合って暮らしていました。一方、地元の西東京市では生産緑地が減り、住民間の関わりも希薄化し、私が育ってきた原風景が失われつつありました」。そこで帰属する地域を元気にしたいとの思いから、国内

「とはいえ、いずれは都市農地でお金を生み出し、高齢者や障害者の方々が輝ける仕組みを実現したいですね。自らの周りの地域の暮らしを良くしていくことが大切だと思っています。その中で一人社長として自分も収益を出して食べていければと頑張っています」

「ある意味、CSRや広報部門に近い」と話す若尾さん。

「再生を手がける団体で事務局長の業務を受託してNPO運営や地域づくり全般を手がけるほか、群馬県片品村での地方創生計画の策定、組織やプロジェクトの立ち上げなどにも携わっている。みんなの畑の運営は

## 誰もが集い共に作る 都会の畑



東京都西東京市



ひらの こうし  
平野耕志さん

<ザンビア/村落開発普及員/  
2011(平成23)年度4次隊・静岡県出身>  
キウイフルーツカントリー Japan 代表

受賞理由: 隊員活動を経て、故郷で循環型農業を  
実践。海外での指導や研修生の受け入れ、体験農  
場における社会教育など、持続可能な農業の実践  
と人材育成に貢献している。

プロフィール: 日本や米国で農業を学び協力隊に  
参加。大学院で観光農業マーケティングを研究  
し、2020年に実家の農園を引き継ぐ。静岡県「地  
域のお店」デザイン表彰など受賞歴多数。



SDGs実践賞

自分のやりたい農業は何だろうと悩  
んでいた時、協力隊に参加しました。  
ザンビアで野菜の生産・販売に携  
わる中、人々の生きる力や畑の在り  
方に多くを学び、帰国後、実家の農  
園を、ただ農作物を作る場所ではな  
く、みんなが集まる場に変えました。  
人と自然との距離を縮めるため、こ  
れからも子どもたちや国内外の研修  
生を受け入れ、海外での農業指導も  
続けています。

きのしたかずほ  
木下一穂さん

<ルワンダ/野菜栽培/  
2012(平成24)年度3次隊・東京都出身>  
RWA MITTU Ltd. (ルワミツ) 代表

受賞理由: 豚やナッツという現地のを無駄な  
く使い、循環型農業を実現。無理のない販売ルー  
トや現地従業員が安心して働ける環境もつくり、ビ  
ジネスの構想力と実行力が評価された。

プロフィール: 大学で農業を学び、飼料会社やト  
マト農家に勤務。協力隊ではトマト栽培農家の組合  
をサポートした。帰国後すぐにルワンダへ戻り、養  
豚と養蜂、ナッツ生産・販売を行う会社を起業。



アントレプレナーシップ賞

協力隊の活動を通じて、ルワンダで  
農業を追究しようと決意しました。蜂  
蜜に始まり、蜂が蜜を採る果樹として  
マカダミアナッツを植え、バランスの  
良い肥料を作るため豚を飼い、飼料  
を作るためトウモロコシやキャッサバ  
を植えて…と試行錯誤の結果、化学  
肥料に頼らない循環型農業が実現  
しました。従業員家族が安心して働  
ける環境を整え、日本の農業高校と  
の技術交流も続けています。

まき  
牧 ちさとさん

<ケニア/障害児・者支援/  
2016(平成28)年度1次隊・鹿児島県出身>  
外国につながるある  
児童・生徒への支援を考える会

受賞理由: 外国につながるある児童・生徒と保  
護者の支援に取り組む。OVの教員や行政などさ  
まざまな主体を結びつけた活動が、多文化共生社  
会に向けた後進のモデルとして評価された。

プロフィール: 神奈川県の特設支援学校に勤務中  
の2014年、JICA教師海外研修に参加。16年、現  
職教員特別参加制度でケニアに赴任後、復職して  
特設支援学校で地域支援業務に従事。



多文化共生賞

特別支援学校・学級に通う、外国に  
つながりのある児童・生徒と保護者  
の支援に取り組んでいます。協力隊  
経験のある教員のネットワーキング  
や行政と連携した支援体制の構築  
など、さまざまなステークホルダーを  
結び、多文化共生社会の実現を目指  
してきました。今後は各校の調査・  
分析を基に作成した事例集を活用し  
ながら、一人でも多くの子どもたちを  
支援できる仕組みをつくっていく予  
定です。

おく ゆい か  
奥 結香さん

<マレーシア/障害児・者支援/  
2014(平成26)年度2次隊・愛知県出身>  
NPO法人Teto Company 理事長

受賞理由: 互助と共生の地域を実現するため、学  
校や病院、行政、地域住民を巻き込んで、誰もが  
集える居場所をつくっていることが地域活性化の  
モデルになり得るとして表彰された。

プロフィール: 障害者福祉の在り方を変えたいと  
活動する中で協力隊に参加。帰国後、地域おこし  
協力隊で大分県竹田市に移住して2018年に「みん  
なのいえ カラフル」を、23年に「Haru+」を開所。



地域活性化賞

協力隊の2年間を通じて地域福祉の  
可能性を感じ、帰国後、高齢化率が  
約50%の大分県竹田市で、乳幼児  
から高齢者まで障害の有無にかか  
わらず多様な人が集う居場所をつ  
くりました。法人のビジョン「ひとりぼ  
ちをつくらぬ地域社会を創る」と  
いう目標が生まれたのは、協力隊の  
経験があったからこそ。挑戦する大  
切さを学びました。

▶ P6~特集に記事があります

ひびの  
日比野ともみさん

<ヨルダン/音楽/  
2012(平成24)年度1次隊・東京都出身>  
ヤマハ株式会社

受賞理由: 現職参加からの復職後、音楽教育が未  
発展の国でリコーダーや鍵盤ハーモニカによる教  
育を普及させる事業を推進。事業拡大と途上国の  
開発教育の双方に貢献しており、現職参加派遣元  
企業と参加者双方のモデルとして表彰。

プロフィール: 新卒でヤマハに入社。海外協力休  
職制度で協力隊に参加しヨルダンの難民キャンプ  
で音楽教員として活動。復職して現在も勤務中。



現職参加発展賞

協力隊での現場経験やアラビア語  
能力などを買われ、当社の「スク  
ールプロジェクト」に抜きさしまし  
た。海外の公教育にて楽器を使った  
音楽教育を普及・推進する本事業  
で、戦略立案と現地教員などの育成  
を担当しています。楽器メーカーたる  
当社のビジネスへの貢献と、音楽を  
通じて各国の発展を支える人材を育  
成する社会貢献を両立できる業務  
に携われることを幸せに思います。

すなはらじゅんぺい  
砂原遵平さん

<マラウイ/コミュニティ開発/  
2014(平成26)年度1次隊・京都府出身>  
アフリカ連合開発庁 (AUDA-NEPAD)  
インフラアドバイザー

受賞理由: アフリカの発展と日本の国益の双方に  
資する活動をキャリア形成の軸に定めて国際機関  
などで勤務しており、国際協力分野での活躍を目  
指す協力隊の模範として選出された。

プロフィール: 国内金融機関で勤務後、協力隊に  
参加。ブラッドフォード大学院で開発経済学の修  
士号取得。経済協力開発機構 (OECD) 日本政府  
代表部を経て、2021年からAUDA-NEPADへ。



国際協力キャリア賞

協力隊では金融の専門性を生かし  
て、公的金融機関にアクセスできな  
い農村部の住民たちから成るグル  
ープを支援しました。国際協力のキ  
ャリアを積み、現場で何が起きている  
のか考えて意思決定できるのは隊員  
経験があるから。日本とアフリカの  
橋渡し役として、現地での日本のプ  
レゼンスを促進するのが、現場を知  
る私の重要な役目だと考えています。

2022年度  
文化庁長官表彰

やぎきりえ  
矢崎理恵 (旧姓 倉品) さん

<フィリピン/日本語教師/  
1981 (昭和56) 年度4次隊・長野県出身>  
社会福祉法人さぼと21  
チーフコーディネーター

受賞理由: 在住外国人への日本語教育に長年携わり、コーディネーターとして継続的な支援体制の整備にも尽力。文化庁のオンライン日本語学習教材の開発への助言などでの貢献も評価された。  
プロフィール: 大学で日本語教育を専攻し、日本語教師隊員としてフィリピンで活動。帰国後も日本語教師を続ける。2006年よりさぼと21において、難民などを対象に学習支援や相談対応などに取り組んできた。



協力隊からの帰国後、日本語教育に携わりながら国際協力に関わりたくと模索していた頃、日本に定住する外国人の自立を支援する、社会福祉法人さぼと21の仕事に巡り合いました。以来、学習支援室のチーフコーディネーターとして、利用者とボランティアさんたちのマッチングを行い、多様な背景を持つ人々が共生する社会を目指して活動してきました。

駐日ネパール大使から感謝状

はんたよしお  
半田好男さん

<ネパール/理数科教師/  
1991 (平成3) 年度1次隊・栃木県出身>  
NGOディー・フォーラム 日本代表

受賞理由: 帰国に際して任地の山村で識字教育や職業訓練を行うNGOを創設し、自らも毎年現地を訪ねてニーズの聞き取りなどを継続。30年来の支援に、駐日ネパール大使から感謝状が贈られた。  
プロフィール: 栃木県立高校の教員在職中に、理数科教師としてネパールへ赴任。活動と別に、大人への夜間識字教室を開講した。帰国後は、復職する傍らネパールへの支援を続けた。



隊員活動をきっかけにネパールに関わって30年余り、できる範囲の支援活動を続けてきました。識字教室は女性たちの自立への一歩につながり、「真っ暗だった心に光が差し込んだ」と村人から言われたことが忘れられません。内戦や震災などの困難にも見舞われましたが、日本とネパールの仲間と共に支援を継続できました。感謝状は、支えてくださったすべての人に贈られたものです。

2023年  
北海道社会貢献賞

かねこまさみ  
金子正美さん

<マレーシア/村落開発普及員/  
1989 (平成元) 年度1次隊・北海道出身>  
酪農学園大学名誉教授・  
株式会社インターリージョン代表取締役CEO

受賞理由: 環境保全分野での技術研修員の受け入れや技術協力に取り組み、北海道の国際化推進に貢献したとして表彰された。  
プロフィール: 環境保全学を専攻し、北海道庁へ。同庁初の現職参加で活動後、復職。2001年より酪農学園大で教壇に立つ。23年、同校認定第1号のベンチャー企業としてインターリージョンを設立。



協力隊から帰ってきて約30年間、JICAの草の根技術協力事業や学生の海外実習、留学生との文化交流などを通じて、国際交流を続けてきました。これまでに受け入れた研修員が世界各地で活躍するほか、道内企業や地域おこし協力隊で地域貢献する人もいます。北海道の若者を海外へ送る取り組みに力を入れてきましたが、今回の受賞はこれまでの活動への「努力賞」と捉えています。

その他の表彰

第1回JICA海外協力隊帰国隊員社会還元表彰以外にも、  
各界で活躍するOVの方々がさまざまな場面で表彰を受けています。

2022年度  
国際交流基金地球市民賞

あおきゆか  
青木由香さん

<ブラジル/日系JV/日本語教師/  
2005 (平成17) 年度0次隊 (21回生)・富山県出身>  
NPO法人アレッセ高岡 理事長

受賞理由: 外国人労働者やその子どもが多い富山県高岡市で地域の人々が互いの違いを理解・尊重できるような教育プログラムを展開。多文化共生社会実現への努力と地域活性化に貢献している。  
プロフィール: 大学院修了後、ブラジルへ赴任して日系日本語学校で活動。帰国後は外国人相談員として富山県西部で働き、2010年に任意団体アレッセ高岡を設立した(後にNPO法人へ改組)。



アレッセ高岡では、外国にルーツを持つ青少年の学習支援を行っています。日系社会青年ボランティアからの帰国後に地元の学校を回りましたが、外国にルーツを持つ子どものサポート体制が整っておらず、日本語が壁となり高校進学を諦める生徒も少なくありませんでした。多文化共生社会の実現に向け、3年前から市民性教育の活動も始めています。

世界理学療法連盟学会  
Leadership in Rehabilitation賞

こばやしよしみ  
小林義文さん

<マレーシア/理学療法士/  
1983 (昭和58) 年度3次隊・福井県出身>  
理学療法士

受賞理由: 日本の総合病院などでの勤務の傍ら、JICAやNPOと共に海外研修員の受け入れや地域の難病患者の支援に尽力。理学療法士としての長年の功績から日本人として初の表彰を受けた。  
プロフィール: 新潟県の小児療育センターでの勤務を経て協力隊に応募し、重度障害者療養施設で活動。帰国後は病院勤務を経て、2022年より福井県医療福祉専門学校日本語学科の講師に。



しょうい  
傷痍軍人だった祖父の影響で理学療法士を志し、協力隊に参加したのは1984年。途上国の福祉の現状を見たのが原動力となり、その後40年近く国内外の障害者福祉に関わり続けています。地元で取り組んだことが海外で役立ち、海外の人を受け入れたことで地元の人々の世界が広がりました。今は専門学校で留学生に日本語を教えつつ、介護福祉コースで後進の指導にも当たっています。



# JOCV BOOKS

## 協力隊経験者の著書

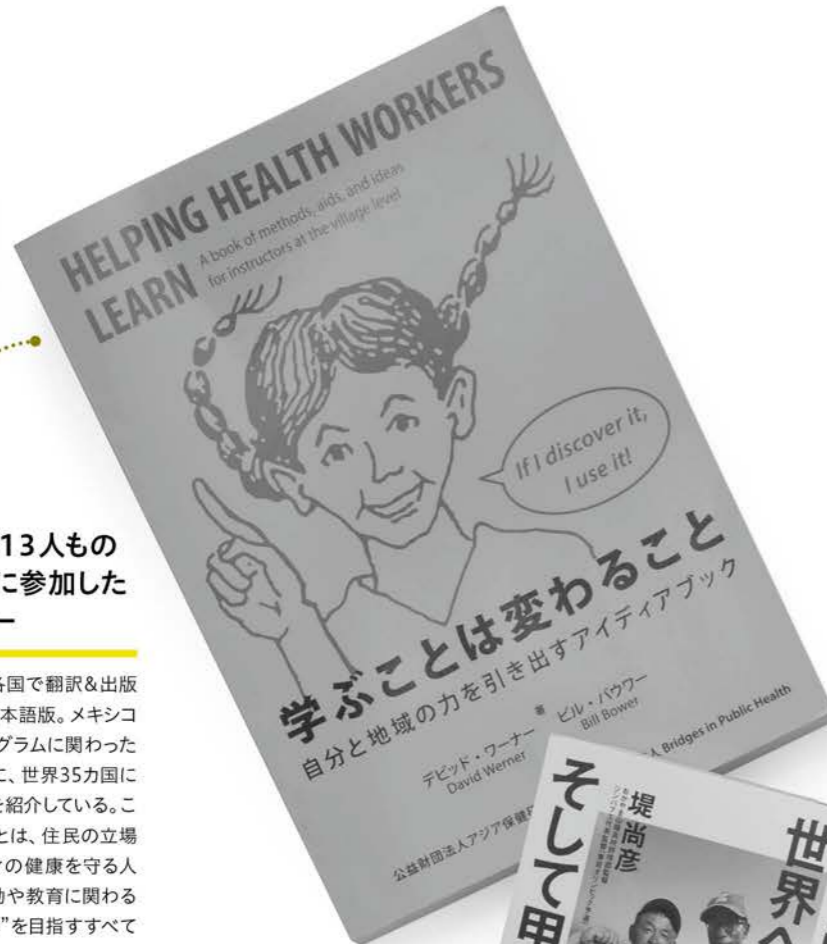
JICA海外協力隊経験者による著書は、派遣中の体験や、その経験を生かしたその後の人生が詰まった貴重な情報源。編集室お薦めの4冊を紹介します。

### 翻訳者29人のうち13人もの協力隊OVが翻訳に参加した世界的ベストセラー

1982年の初版以来、世界各国で翻訳&出版されているベストセラーの日本語版。メキシコの山間部でヘルスケアプログラムに関わった著者の16年間の経験を基に、世界35カ国における学習方法のアイデアを紹介している。この本が指すヘルスワーカーとは、住民の立場で自分と自分のコミュニティの健康を守る人たちのこと。開発・地域活動や教育に関わる方など、“健康な地域づくり”を目指すすべての人たちが必携の1冊。

『学ぶことは変わること  
自分と地域の力を引き出すアイデアブック』  
(原題: Helping Health Workers Learn)

著: デビッド・ワーナー、ビル・パウワー  
翻訳監修: 石本 馨<マレーシア/作業療法士/1995(平成7)年度1次隊・新潟県出身>、坂本舞花、清水香子、林 かくみ、樋口倫代  
翻訳者の中のOV:  
秋田真千代<スリランカ/幼稚園教諭/1994(平成6)年度3次隊(ほか)>、石崎美保(旧姓 中口)<チリ/村落開発普及員/2004(平成16)年度2次隊>、大西海斗<ウズベキスタン/理学療法士/2015(平成27)年度3次隊>、河野 眞<マラウイ/作業療法士/2000(平成12)年度1次隊>、堤 智子<スリランカ/陶磁器/1987(昭和62)年度1次隊(ほか)>、寺村 晃<ニカラグア/作業療法士/2011(平成23)年度1次隊>、徳田千帆<マレーシア/作業療法士/2015(平成27)年度1次隊>、西川定之<バヌアツ/看護師/2009(平成21)年度3次隊>、東田全央<スリランカ/ソーシャルワーカー/2012(平成24)年度3次隊>、古川雅一<キルギス/理学療法士/2017年度1次隊>、宮本 圭<SV/ネパール/看護教育/2006(平成18)年度0次隊(ほか)>、家亀志伸(旧姓 水谷)<キルギス/理学療法士/2013(平成25)年度2次隊>、石本 馨  
日本語版発行: 銀河書籍  
監訳: 公益財団法人アジア保健研修所(AHI)・一般社団法人Bridges in Public Health(BiPH)  
定価: 書籍3,980円 PDF版2,980円(どちらも税込)



### 夏の甲子園でベスト8 導いた監督の野球人生

おかやま山陽高等学校野球部監督として2017年夏に甲子園初出場を果たし、今年は8強入り。また東京オリンピック予選ジバブ工代表監督を務めるなど、異色の経歴を持つ協力隊OV、堤 尚彦さんがこれまで語った1冊。「世界に野球を広める」という大志を抱くきっかけとなった出会い、スポーツビジネス界の交渉の実態、国籍にかかわらずチームメンバーの心をつかむ方法など、帰国後の活動のリアルと夢を叶えるためのヒントが満載。本書印税でジバブエに野球場を造る夢がある。

『アフリカから世界へ、そして甲子園へ 規格外の高校野球監督を目指す、世界普及への歩み』  
著: 堤 尚彦<ジバブエ/野球/1995(平成7)年度2次隊、ガーナ/プログラムオフィサー/1998(平成10)年度9次隊・兵庫県出身>  
発行: 東京ニュース通信社/発売: 講談社  
定価: 1,760円(税込)



### フィールドワークを通じ 異文化に触れる楽しさ伝える

高校の社会科系科目が再編され、国際理解と国際協力、地球的な諸課題、持続可能な社会づくりなどが重視されている。本書は、地理学と文化人類学の研究者が世界各国でのフィールドワークによって得た知見を、60の問いと、それを掘り下げていくための資料と共に披露。異文化に触れることの面白さを伝える各エピソードは、授業の組み立てだけでなく、自分の考えを広げ、深めるためにも必読。

『フィールドから地球を学ぶ 地理授業のための60のエピソード』  
編者: 横山 智<ラオス/電子工学/1991(平成3)年度3次隊・北海道出身>、湖中真哉、由井義通、綾部真雄、森本 泉、三尾裕子  
発行: 古今書院  
定価: 3,300円(税込)



企画・文担当  
仁科潤紀さん  
ブルキナファソ/幼児教育/  
2017年度2次隊・静岡県出身

絵・デザイン担当  
うちだ いわ  
内田 巖さん  
グラフィックデザイナー



フランス語版

日本語版

アラビア語版

『せかいのおようふく』  
著: いわとじゅん  
価格: 1,800円(税込)  
(自費出版で個人で販売中)  
言語: 日本語、英語、アラビア語、フランス語、シンハラ語、ネパール語

### 「世界は面白い！」と途上国の子どもたちに絵本で伝えたい

中南米、アフリカ、アジア、北米、ヨーロッパ、さまざまな国にルーツを持つ子どもたちが自分の民族衣装を誇りに思い、他の国の民族衣装を楽しむ様子を描いた絵本『せかいのおようふく』。「世界は面白いと子どもたちに知ってほしい」と、元協力隊員で保育士の仁科潤紀さんと、その友人でグラフィックデザイナーの内田巖さんが、二人の名前から取った「いわとじゅん」名義で制作・出版した。絵本作りは初めての二人。本業の合間、手探りで進めていったと仁科さんは振り返る。

「いろいろな国や人が出てきて世界を知れるような絵本がなかったので、自分たちで作ることにしました。前職の保育園を見学して参考にさせてもらい、登場人物のキャラクター、背景から小物に至るまで、細かいところも二人で話し合いながら作り込んでいきました。ストーリーは、絵本を読んだことがない途上国の子どもたちのために、起承転結がはっきりしていて内容がわかりやすいこと、読み心地や聞き心地の良さにもこだわりました」

完成までに要した期間は3年。2022年11月、完成した絵本を持って二人が訪れたのは、仁科さんの任地だったブルキナファソ。児童養護施設や空教室を回り、子どもたちに絵本を読み聞かせた。「子どもたちにとって人生初の絵本とあって最初は反応が薄かったのですが、その後、取り合いになるほど気に入ってくれたと先生から報告がありました」。

現在は、日本語版、英語版、アラビア語版、フランス語版、シンハラ語版、ネパール語版が完成。幼児教育職種で派遣される隊員には寄贈し、任地で活用してもらっている。「今後は、NPO法人 at:hiza no ue(ひざのうえ)を立ち上げ、子どもたちが笑顔で過ごせる社会を目指して活動したいと考えています。絵本はそのためのツールの一つ。絵本を読んでもらうことで、子どもは大人からの愛情を感じ、さまざまなことを学び取っていきます。ぜひ、膝の上に乗せて読み聞かせてあげてほしいと思います」

絵本を購入したい方や、NPO法人 at:hiza no ueについて興味のある方はメールで連絡を▶ iwatojun@gmail.com



カラフルで優しい色使いが印象的な絵本『せかいのおようふく』。どのページからも子どもたちのワクワクドキドキが伝わってくる

# 進路開拓インフォメーション & 帰国後支援



JICA海外協力隊ウェブサイトでは、協力隊経験者が帰国後も経験と知見を生かして活躍するためのさまざまな窓口を紹介していますので、ぜひご利用ください。

JICA海外協力隊ウェブサイト  
「帰国した方へ」  
<https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/>

## 進路開拓支援

### 進路を探る

#### 研修(オンラインでの実施)

協力隊経験を基に次の活動への参考となる研修です。「隊員経験の棚卸し」をはじめ、「災害ボランティア参加にあたっての基礎知識」「現職教員向け」など多様なテーマで役立つ研修を開催します。

#### テーマ・分野別セミナー(オンラインでの実施)

帰国隊員が広い視野に立ってキャリアプランができるように実践的で具体的な情報を提供します。進路開拓、社会還元活動などの参考となるセミナーを実施しており、内容は進路(就職、進学、起業)、在日外国人支援、多文化共生、災害ボランティアなどです。

#### 青年海外協力隊相談役

帰国隊員の社会還元活動に関する相談を受けつけています。

### 働く

#### 帰国隊員進路情報ページ

求人情報、セミナー・進学情報など、進路開拓に活用できる情報を掲載・随時更新しています。

#### 教員・自治体の特別採用枠

教員や自治体職員を目指す方向けに、特別採用枠を設けている自治体を紹介しています。

#### 国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」

JICAとそれ以外の団体・企業の求人情報を発信しています。国際協力分野でのキャリアアップにつながる研修・セミナー情報も閲覧できます。PARTNERでは、国際協力の分野での活躍を目指しているサービス登録者からの、キャリア形成に関するご相談に対しアドバイスを行っています。



#### JICAの採用情報・人材募集・研修

JICA職員、専門家などの人材募集、研修、インターンシップなどの情報を一元化しています。

#### JOCV枠UNV制度

OVを国連ボランティアとして主に国連機関に派遣するJOCV枠UNV制度を紹介しています。

### 学ぶ

#### 大学・大学院の特別入試制度

大学や大学院でさらに専門性を高めたい方に、海外協力隊などの経験者を含む社会人・国際協力経験者に対する受験枠や特別措置・特別枠などのある大学・大学院を紹介しています。

#### 教育訓練手当

帰国後の進路開拓に役立つ技術・技能の修得、または免許・資格の取得につながる教育訓練を支援する制度を紹介しています。

#### 奨学金事業

帰国後2年以内の帰国隊員のうち、協力隊への参加で得た知識・経験を社会還元を活用するため、国内外の大学院への進学を志望する方、進学しているOVの方を対象とした奨学金給付事業を紹介しています。

## OV向け各種インフォメーション

### 派遣証明書発給の申請

就職先・教員採用試験・奨学金の申請などで派遣証明書が必要な方は、こちらから発給の申請をしてください。

### 住所変更届・進路現況連絡票の提出

住所・連絡先・メールアドレス・氏名の変更があった方、また進路が決定した方は届け出をお願いします。

### 帰国隊員の進路状況の閲覧

帰国した青年海外協力隊および日系社会青年ボランティアに対しアンケートを実施し、帰国隊員の進路状況を掲載しています。

### OB・OG関連のお知らせ

協力隊関連イベント、OB・OG会、OB・OGの著書紹介や隊員活動に関する寄稿や講演などについてご案内しています。

## JICA海外協力隊LinkedIn公式アカウントに登録しよう!

青年海外協力隊事務局では、派遣中の隊員とOVのネットワーキングや、派遣中隊員の活動支援を目的に、世界最大のビジネス特化型のSNSであるLinkedIn(リンクトイン)を運用しています。JICA公式の非公開グループとして「災害ボランティア」「社会還元」「社会起業・兼業」があり、多くのOVが参加して交流を広げています。ぜひ公式アカウントに登録し、活用してください。非公開グループにおける皆様の発信・募集は大歓迎です!

### 災害ボランティアグループ



帰国後災害ボランティアに関心を持ち、一步を踏み出そうとしている方、すでに災害支援の現場で活躍しているOVの方などの情報を共有し、相互に知識を深めていくことで災害発生時にスムーズに動きだすことができるようなグループを目指しています。  
<https://www.linkedin.com/groups/14109850/>

### 帰国後の社会還元における情報共有グループ

協力隊経験を生かした社会還元活動に関心を持ち、一步を踏み出そうとしている方、在住外国人支援や地域のボランティア活動に参加している方など、帰国後の活動情報を共有し、隊次や年齢を超えてつながっていけるグループを目指しています。  
<https://www.linkedin.com/groups/14138230/>

### 社会起業・兼業グループ

社会起業・兼業を志す、もしくは、実践している隊員・OVを中心としたグループ。活動紹介や情報交換、JICA関係者や社会起業・兼業を実践・支援する団体などからの情報提供、社会起業・兼業に関するマッチング機会の提供などを目的としています。  
<https://www.linkedin.com/groups/14054083/>

## グループに参加するためのLinkedIn JICA公式アカウントの登録方法

海外協力隊の非公開グループには、LinkedInに隊員情報を登録していただくことで参加が可能になります。次の案内を参考に登録をお願いします。

【LinkedInのアカウントをお持ちでない方】LinkedIn登録画面(<https://www.linkedin.com/>)でメールアドレスとパスワードを記入し、メンバー登録をしてから、アカウント設定に進んでください。

※プロフィール登録の際、入力範囲、公開範囲は本人の意思により設定してください。

- 役職 ▶ ご自身の職種名を入力してください
- 雇用形態 ▶ 選択せず未入力にしてください
- 会社名 ▶ 「JICA海外協力隊」 ※半角大文字で入力すると公式アカウントが自動で表示されますので選択してください
- 場所 ▶ 「派遣国」を入力してください 例) ラオス
- 場所の種類 ▶ 選択せずそのままにしてください
- 現在このポジションで働いています ▶ 帰国済みの方は必ずチェックを外してください
- 開始日 ▶ 派遣開始年月
- 終了日 ▶ 派遣終了年月
- 保存 ▶ 忘れずに押して設定画面を閉じてください

公式【JICA海外協力隊アカウント】へ登録

<https://www.linkedin.com/company/jicajocv/> にアクセスし「フォロー」をクリックしてください。

※参加承諾の返信が届くまで少しお時間がかかります。ご了承ください。

海外協力隊事務局では、上記以外の非公開グループも開設しています。参加条件として、名前・隊次・派遣国・職種を必ず入力してください。ご協力をお願いいたします。

※複数回派遣されている方は、履歴欄の鉛筆アイコンの上にある「+」ボタンをクリックし、「ポジションを追加」から派遣ごとの履歴を追加してください。





# JICA海外協力隊経験者による団体・企業

NGOやNPO、企業などで国際協力活動や社会課題解決を目指す団体の一部をご紹介します。

[凡例]

団体名称 (名称の読みがな) 代表者	【事業対象の国/地域】 事業概要
<b>アフリカ工房</b> 前田真澄 (旧姓 鈴木) <ガーナ/村落開発普及員/2001(平成13)年度2次隊>	【ガーナ】ガーナ北部の村からフェアトレードで輸入したシアバターを原料に、化粧品の製造・販売を行い、日本とアフリカを笑顔でつなぐ。
<b>アフリカ理解プロジェクト</b> 白鳥くるみ (旧姓 川野) <ケニア/家政/1978(昭和53)年度2次隊前期>	【アフリカ地域】元ケニア隊員たちが中心となって設立。可能性と世界的な課題を抱えるアフリカへの関心を高め、アフリカと日本の活力へつなげる活動(出版、教育支援、講座の企画・開催、情報提供など)を行う。
<b>株式会社ア・ダンセ</b> 森重裕子 <ブルキナファソ/村落開発普及員/2003(平成15)年度1次隊>	【ブルキナファソ】ブルキナファソ産シアバターやモロッコ産アルガンオイルを使ったせっけんや化粧品、手仕事を大切にした雑貨やアクセサリの企画・製造技術支援・販売を行う。
<b>Alphajiri (アルファジリ)</b> 薬師川智子 <ケニア/マーケティング/2013(平成25)年度3次隊>	【ケニア】小規模農家の貧困解決に取り組む農業サプライチェーンマネジメント会社。農村の自助グループ組成のサポートをはじめ、高品質な農産物の流通・加工などで小規模農家の生活向上を図る。
<b>認定NPO法人AfriMedico (アフリメディコ)</b> 町井恵理 <ニジェール/感染症対策/2006(平成18)年度0次隊>	【アフリカ地域】日本発祥の「置き薬」の仕組みを展開し、人々の健康と笑顔に寄与。全員が本業を持つ日本人プロボノ約30人とタンザニア人約20人で活動。持続可能な「アフリカ現代版置き薬モデル」を目指し、人材募集中。
<b>NPO法人アブカス</b> 石川直人 <スリランカ/環境教育/2002(平成14)年度2次隊>	【スリランカ】ソーシャルビジネスを通じた社会課題解決に注力。現在、視覚障害指圧師の指圧院「Thusare Talking Hands」の運営、持続可能な農業技術の普及および有機食品店「Kenko1st」の運営を行う。
<b>株式会社andu amet (アンドゥアメット)</b> 鮫島弘子 <エチオピア/デザイン/2001(平成13)年度3次隊>	【エチオピア】世界最高峰の羊皮「エチオピアシープスキン」をぜいたくに使用し、製品も製造過程も美しくあることを目指したエシカルリュクスなレザーブランド。表参道のコンセプトストアやオンラインで販売中。
<b>eje &amp; (エジェ・アンド)</b> 西田すみれ (旧姓 北島) <キルギス/村落開発普及員/2013(平成25)年度1次隊>	【キルギス】キルギスの女性たちが現地産の羊毛を使い、現地産のハーブなどで草木染をしてつくったフェルトの雑貨を輸入・販売する。「eje」は、キルギス語で「目上の女性」の総称として使われる言葉。
<b>エシカルジュエリーブランド「maramana」</b> 早水綾野 <ソロモン諸島/プログラムオフィサー/2012(平成24)年度1次隊>	【ソロモン諸島】ソロモン諸島の村人が海辺で拾い集めた貝を材料に、現地の職人が貝細工として仕上げたものをフェアトレードで仕入れ、日本でエシカルジュエリーとして販売する。ネックレス、ピアス、ブレスレットなどがそろそろ。
<b>縁結び工房</b> 内山千尋 <タイ/日本語教師/1994(平成6)年度2次隊>	【タイ・ラオスを中心とする東南アジア地域と日本】タイやラオスの織物の村で手染め・手織りで作られた絹織から仕立てた茶道用帛紗を中心とする茶道小物の企画・製造・販売。茶道入門講座や、外国人を含めた初めてのの方のための気軽な茶会の実施。
<b>株式会社Girls, be Ambitious (ガールズビーアンビシャス)</b> 番匠麻樹 <フィリピン/村落開発普及員/2010(平成22)年度2次隊>	【フィリピン】フィリピン産のモリンガやコーヒー、精油などを素材とする食品や化粧品などの企画・輸入・販売に加え、ソーシャルビジネス・コンサルティングを行う。
<b>カンガ屋 katikati (カティカティ)</b> 柳澤栄次 <ケニア/村落開発普及員/2009(平成21)年度3次隊>	【ケニア】東アフリカの民族布「カンガ」の専門店。カンガを中心とした衣類や雑貨の制作や販売を行う。
<b>KESTES (ケステス)</b> 加賀瀬 悠 (ケニア/環境教育/2019年度3次隊) = 日本窓口代表	【ケニア】人格、成績共に優秀であるが、経済的な理由で就学の継続が困難なケニアの子どもたちを対象とする奨学金事業を運営。メンバーは、ケニアの協力隊員やその経験者たち。
<b>認定NPO法人シェア=国際保健協力市民の会</b> 仲佐 保 (医師) 本田 徹 <チュニジア/医師/1976(昭和51)年度2次隊前期>	【日本、カンボジア、東ティモール】母子保健、保健人材育成、医療アクセスの改善、保健教育の質向上、在日外国人支援などの分野における活動を国内外で展開する。
<b>jam tun (ジャムタン)</b> 田賀朋子 <セネガル/コミュニティ開発/2014(平成26)年度2次隊>	【セネガル】「アフリカと日本をわくわくでつなぐ」をコンセプトに、セネガルのカラフルなプリント布を使った服や雑貨の制作・販売を、同国のテラーたちと共に行う。
<b>スランガニ</b> 馬場繁子 <スリランカ/幼稚園教諭/1986(昭和61)年度3次隊>	【スリランカ】スリランカの子どもたちの学びや生活の環境向上を目的に、幼児教育支援、絵本出版、教育里親事業、障害児通所施設の運営、女性の生計支援などを行う。
<b>Semilla (セミージャ)・青い空の会</b> 白石光代 <グアテマラ/花卉/1999(平成11)年度1次隊>	【グアテマラ】グアテマラの誇る織物やビーズを使った民芸品の企画・制作・販売を行う。作り手である村の女性の経済的自立を目指している。青い空の会では支援者の声子ども一人ひとりに届く就学支援、グアテマラの伝統文化を生かした自立支援を行う。地元の人たちの協力のもと、地域に根ざした活動を目指している。
<b>daladala. (ダラダラ)</b> 佐屋 眸 (旧姓 小島) <モンゴル/デザイン/2007(平成19)年度3次隊>	【モンゴル、アフリカ地域】モンゴルの羊毛フェルトやアフリカ伝統の素材を使ったハンドメイド製品の企画デザイン・輸入・販売を行う。

## 派遣国別 | 派遣国が同じJICA海外協力隊経験者などで構成するOV会

地域	派遣国	団体名	団体情報
アジア	ベトナム	ベトナムOV会	公式FB : <a href="https://www.facebook.com/groups/417689808282780/?ref=share">https://www.facebook.com/groups/417689808282780/?ref=share</a> 入会・問い合わせ窓口 : kosuke03@hotmail.com (担当:青木)
	マレーシア	青年海外協力隊マレーシア会	公式HP : <a href="https://ics-together.com/office_jocvmalaysia.html">https://ics-together.com/office_jocvmalaysia.html</a> 入会・問い合わせ窓口 : malaysia@ics-together.com (担当:志岐)
	ラオス	青年海外協力隊ラオスOV会	公式FB : 一般公開なし。ラオスOVはOV会入会後、FBのURLをお知らせします。 入会・問い合わせ窓口 : sekimoto@cam.hi-ho.ne.jp (担当:関本)

## 分野別等 | 派遣中・帰国後の職種・活動領域などが同じJICA海外協力隊経験者などで構成するOV会

分野(大)	分野(小)	団体名	団体情報
教育	環境教育	青年海外協力隊環境教育OV会	公式HP : <a href="https://seejocv.weebly.com">https://seejocv.weebly.com</a> 入会・問い合わせ窓口 : see.jocv@hotmail.com (担当:加藤)
	学校教育	全国OV教員・教育研究会	公式FB : <a href="https://www.facebook.com/zenovkk">https://www.facebook.com/zenovkk</a> 入会・問い合わせ窓口 : zenovkk@gmail.com (担当:金田)
	学校教育	関東教育支援ネットワーク	公式FB : <a href="https://www.facebook.com/kesn2012">https://www.facebook.com/kesn2012</a> 入会・問い合わせ窓口 : mwalimu.kaneta@gmail.com (担当:金田)
	学校教育	京都府OV教員研究会	ML申し込み・問い合わせ窓口 : masahirak0212@yahoo.co.jp (担当:川村昌広)
	学校教育	大阪教育ネットワーク	公式FB : <a href="https://www.facebook.com/groups/947018149070572">https://www.facebook.com/groups/947018149070572</a> メンバーリストあります。(右記にお問い合わせください) 入会・問い合わせ窓口 : mituwo.sanno@nifty.com (担当:三野)
	学校教育	兵庫OV教員研究会	入会・問い合わせ窓口 : kofitake@yahoo.co.jp (担当:山崎たけし) JICA関西で年3回研究会を開いています。どなたでもお越しください。青年海外協力隊兵庫OB会やJICA関西のHPで紹介いただくことがあります。
スポーツ	バレーボール	JOCV/バレーボール会	公式FB : <a href="https://www.facebook.com/jocv.volleyball/">https://www.facebook.com/jocv.volleyball/</a> 入会・問い合わせ窓口 : jocvvolleyballkai@yahoo.co.jp (担当:吉水)
	保健・医療	看護職	JOCV看護職ネットワーク
栄養士		青年海外協力隊栄養士ネットワーク	問い合わせ窓口 : jocvnut.net@gmail.com (担当:氏家)
リハビリテーション		JOCVリハビリテーションネットワーク	公式HP : <a href="https://sites.google.com/view/jocvrehanet/">https://sites.google.com/view/jocvrehanet/</a> 入会・問い合わせ窓口 : jocvrehabnetwork@gmail.com (担当:小泉裕一)
その他	無線	JOCV-NETアマチュア無線クラブ	公式FB : <a href="https://www.facebook.com/groups/1653476361544607">https://www.facebook.com/groups/1653476361544607</a> 入会・問い合わせ窓口 : jk1xld@gmail.com
	地域づくり等	日本も元気にする青年海外協力隊OB会	公式HP : <a href="https://blog.canpan.info/nippon-genki-jocv/">https://blog.canpan.info/nippon-genki-jocv/</a> 公式FB : <a href="https://www.facebook.com/nippon.genki.jocv">https://www.facebook.com/nippon.genki.jocv</a> 入会・問い合わせ窓口 : nippon.genki.jocv@gmail.com ※入会については右記のページからできるようになっています。 <a href="https://blog.canpan.info/nippon-genki-jocv/archive/12">https://blog.canpan.info/nippon-genki-jocv/archive/12</a>

## シニア | 海外協力隊や日系社会海外協力隊の経験者などで構成するOV会

分野	団体名	団体情報
総合	NPO法人シニアボランティア経験を活かす会	公式HP : <a href="https://jicasvob.com/">https://jicasvob.com/</a> 公式FB : <a href="https://www.facebook.com/jicasvob/">https://www.facebook.com/jicasvob/</a> 入会・問い合わせ窓口 : info@jicasvob.com
在住地等別	札幌SVくらぶ	入会・問い合わせ窓口 : ja8ve@jarl.com (担当:齋藤邦夫)
	千葉県JICAシニアボランティアの会	公式HP : <a href="http://www.chibajicasvob.com">http://www.chibajicasvob.com</a> 公式FB : <a href="https://www.facebook.com/profile.php?id=100067659364418">https://www.facebook.com/profile.php?id=100067659364418</a> 入会・問い合わせ窓口 : 当会の公式HPの「関連事項紹介」欄から、または、当会のEmailアドレスに直接問い合わせ chibajicasvob02@gmail.com (担当:高瀬)
	静岡県JICAシニア海外ボランティア協会(SOVA)	公式HP : <a href="https://sites.google.com/view/jicasova/">https://sites.google.com/view/jicasova/</a> 入会・問い合わせ窓口 : shizuoka.sova@gmail.com またはHP内の問い合わせフォームより
	JICA中部コスモスクラブ(東海地区シニアボランティアOV会)	入会・問い合わせ窓口 : eddy.nakatani@gmail.com
	JICA近畿シニアボランティアOV会	公式HP : <a href="https://jicaovkinki.jimdofree.com/">https://jicaovkinki.jimdofree.com/</a> 公式FB : <a href="https://www.facebook.com/profile.php?id=100083082503023&amp;sk=about">https://www.facebook.com/profile.php?id=100083082503023&amp;sk=about</a> 入会・問い合わせ窓口 : jicakinkisv@gmail.com
分野別	JICA兵庫シニアOV会	公式HP : <a href="https://www.jhso.org/index.html">https://www.jhso.org/index.html</a> 公式FB : <a href="https://www.facebook.com/jhso.org">https://www.facebook.com/jhso.org</a> 入会・問い合わせ窓口 : mail@jhso.org (担当:北村)
	ICT海外ボランティア会	公式HP : <a href="https://ictov.jimdofree.com/">https://ictov.jimdofree.com/</a> 入会・問い合わせ窓口 : info.ictov@network.email.ne.jp (担当:山川) 情報通信(ICT)分野の国際協力・国際ビジネスに過去・現在携わる法人、団体、個人で本会会員となることを希望する方や本会の趣旨に賛同する方であればどなたでも入会可能です。上記の問い合わせ窓口にご連絡ください。

## その他

出身校等	団体名	団体情報
酪農学園(大学・短期大学)	酪農学園青年海外協力隊OV会	入会・問い合わせ窓口 : gaia373@gmail.com (担当:南繁)
親子がJICA海外協力隊に参加	青年海外協力隊の2世代参加を促進する会	公式HP : <a href="https://2sedaikai.jimdofree.com">https://2sedaikai.jimdofree.com</a> 入会・問い合わせ窓口 : moriohisada@gmail.com (担当:久田守雄)

## JICA海外協力隊経験者による**団体・企業**

<p><b>DAR AMAL ダールアマル</b> 蒲地里奈 &lt;モロッコ/村落開発普及員/2010(平成22)年度2次隊&gt;</p>	<p>【モロッコ】モロッコの小さな村で手を動かすことで生きてきた女性たちと小麦粉袋に刺しゅうを施した3つの優しいものづくりを行う。環境・つくる人・つかう人が笑顔になれるエシカルブランド。</p>
<p><b>南米ボリビア・アマゾンの手づくり自然雑貨の店ラ・カンピータ</b> 河田菜摘 &lt;ボリビア/村落開発普及員/2002(平成14)年度3次隊&gt;</p>	<p>【ボリビア】多様性豊かな大自然と多民族の国ボリビアのアマゾン熱帯地域に暮らす人々がヤシの葉や木の実、木片などの自然素材で一つ一つ丁寧に手づくりする生活雑貨やアクセサリーの販売により、現地の人々の経済的・社会的自立を目指す。</p>
<p><b>株式会社シェリーココ</b> 川口莉穂 &lt;ベナン共和国/青少年活動/2013(平成25)年度4次隊&gt;</p>	<p>【ベナン共和国】ベナンで、アフリカンプリントを使ったものづくりを行い日本で販売し、現地の雇用創出に取り組んでいる。浴衣、アパレル、キッチンインテリアなど、幅広いラインナップを展開。</p>
<p><b>イブラ・ワ・ハイト</b> 山崎やよい &lt;SV/シリア/文化/2002(平成14)年度0次隊、SV/シリア/考古学/2009(平成21)年度2次隊&gt;</p>	<p>【トルコ、ヨルダン、エジプト】シリアでの紛争により近隣諸国に逃れた女性たちに、シリアの伝統モチーフをアレンジした手刺しゅう製品やアクセサリーを制作してもらい、それを適正価格にて買い上げ日本で販売する。工賃の確保はもとより、女性たちの潜在的創造性を引き出し、単なる製造者ではなくクリエイターとしての自覚を育むことを目標にしている。</p>
<p><b>dacco.myanmar</b> 和田直子 &lt;ホンジュラス/音楽/2001(平成13)年度1次隊&gt;</p>	<p>【ミャンマー】ミャンマー各地の職人たちと共に、伝統文化を守り広めることを目指してオリジナル雑貨を制作販売する。現在10年目となるヤンゴン本店のほか、ヤンゴン市内と鹿児島市に支店を持つ。</p>
<p><b>NPO法人日本ラテンアメリカ開発協会</b> 小谷博光 &lt;パラグアイ/野菜栽培/2007(平成19)年度2次隊&gt;</p>	<p>【中南米地域】食料生産や栄養分析などの「食」と関わりのある活動を通して、中南米地域における貧困削減や栄養改善などに取り組む。</p>
<p><b>合同会社Ewako</b> 松本圭太 &lt;インドネシア/陸上競技/2013(平成25)年度1次隊&gt;</p>	<p>【東南アジア、中東地域】東南アジア、中東地域を中心とした輸入食材、輸入品の専門店で、在日外国人に向け、スパイスやアジア野菜、調理器具などの販売を行う。</p>
<p><b>siimee (シーミー)</b> 加藤菜穂(旧姓 梅谷) (ラオス/コミュニティ開発/2017年度3次隊)</p>	<p>【ラオス】「旅するように、生きる服」をコンセプトにしたアパレルブランド。紡ぎや手織り、草木染した上質なラオスの布を使い、ラオスのアトリエで現地縫製チームと質の高い製品作りを行う。</p>
<p><b>ОЙМО from Kyrgyzstan (オイモ)</b> 緒方美鈴(キルギス/体育/2019年度1次隊)</p>	<p>【キルギス】職人たちの手仕事の技術やデザインを受け継ぎ、キルギスの伝統を守ることを目的とした、キルギス発のライフスタイルブランド。キルギスの天然素材を生かして、オリジナルの雑貨や食品などを製造・販売する。オイモとは、キルギスの伝統的な柄のこと。</p>
<p><b>フェアトレードショップ Teebom</b> 今井奈保子 &lt;スリランカ/村落開発普及員/1993(平成5)年度2次隊&gt;</p>	<p>【世界各国】世界フェアトレード連盟などに登録された280以上の生産者団体から生産者を選びすぐり、作ってもらったオリジナル食品やオリジナル雑貨を、静岡県静岡市の実店舗とオンラインショップで販売する。</p>
<p><b>インスタリム株式会社</b> 徳島 泰 &lt;フィリピン/デザイン/2012(平成24)年度1次隊&gt;</p>	<p>【フィリピンほか】「義足がないことで社会参加が拒まれている世界中の人々を救う」ため、オリジナルの3Dプリンターと義足設計用ソフトウェアを自社開発し、ユーザーに合った義足製作を低コスト・低価格・納期短縮で実現、販売する。</p>
<p><b>YAMBI CONNECT LTD.</b> 浅野拳史 &lt;ルワンダ/理科教育/2015(平成27)年度1次隊&gt;</p>	<p>【ルワンダ】日本人向けにルワンダのスタディツアーや視察ツアーなどのコーディネートを行うほか、ルワンダで日本語教室の運営も行う。</p>
<p><b>NPO法人TICO (Tokushima International Cooperation)</b> 吉田 修 &lt;マラウイ/医師/1988(昭和63)年度3次隊&gt;</p>	<p>【ザンビア・カンボジアほか】ザンビアやカンボジアを中心に医療・農村開発、教育支援などの国際協力活動を行っているNGO。徳島県の医師たちを中心に構成されており、技術や知識の移植に積極的に取り組む。</p>
<p><b>NPO法人Yes,Deaf Can!</b> 廣瀬芽里 &lt;ドミニカ共和国/青少年活動/2012(平成24)年度3次隊&gt;</p>	<p>【世界】「ろう者でもできる!」と心に留めてもらえることを目指し、開発途上国のろう者の小規模ビジネスをサポートし、ろう者の持続的な活動の発展を目的とした、マイクロクレジットプログラムに取り組む。</p>
<p><b>COSPA</b> 明智光一郎 &lt;SV/パナマ/農業化学/2000(平成12)年度0次隊&gt;</p>	<p>【パナマ】野生ランの乱獲を防ぐため派遣中に立ち上げたラン栽培者団体「APROVACA」に対し、日本から継続して支援を行うべく設立。資金調達やエコツアー企画のほか、APROVACAに派遣中の隊員と連携してAPROVACAの運営・管理支援も行ってきた。</p>
<p><b>株式会社Sunda Technology Global</b> 坪井 彩 &lt;ウガンダ/コミュニティ開発/2017年度3次隊&gt;</p>	<p>【ウガンダ】継続的なハンドポンプ井戸の維持管理を実現する、住民から水料金を適正に回収する従量課金型の井戸水料金自動回収システム「SUNDA (スンダ)」を開発。ウガンダ各地で設備の販売・設置を行う。</p>
<p><b>NPO法人コーヒーと生産地と協働する会</b> 古賀聖啓 &lt;ルワンダ/果樹栽培/2014(平成26)年度2次隊&gt;</p>	<p>【ルワンダ】ルワンダのコーヒー農園の土壌改良を行い、農家に持続可能なコーヒー栽培を波及させるために設立。あわせて団体を支援するルワンダのコーヒー会社・ファイエマウンテンコーヒーの生豆、焙煎豆の日本での卸も行う。</p>
<p><b>ジブングト大学</b> 田村雅文 &lt;シリア/環境教育/2005(平成17)年度1次隊&gt;</p>	<p>【日本】「世界のタンゴトをジブングトに」をコンセプトとして、オンラインで日本や世界の社会課題について考えるワークショップや当事者などによるセミナーを企画・運営する。</p>

<p><b>chaokao material (チャオカオ・マテリアル)</b> 高野 蘭子 &lt;タイ/手工芸/2003(平成15)年度3次隊&gt;</p>	<p>【タイ】タイ山岳少数民族の伝統刺しゅうや織物を使ったオリジナル雑貨(小物、アクセサリーなど)、素材の販売や卸販売を行う。</p>
<p><b>Chemchem ya Amani Tanzania (チェムチェム・ヤ・アマニ・タンザニア)</b> 飯山尚子(旧姓 会田) &lt;タンザニア/村落開発普及員/2003(平成15)年度2次隊&gt;</p>	<p>【タンザニア】孤児など学校に行けないタンザニアの子どもたちを対象に、就学支援を目的とした「里親制度」を運営する。</p>
<p><b>LakLiya (ラクリヤ)</b> 古賀杏里(旧姓 青木) &lt;スリランカ/観光業/2008(平成20)年度4次隊&gt; 秋山あすか(旧姓 富山) &lt;スリランカ/コンピュータ技術/2008(平成20)年度4次隊&gt;</p>	<p>【スリランカ】スリランカの女性たちがつくるランチョンマットやコースターなどの手織りコットン製品を中心に、スリランカのアクセサリーや生活雑貨を販売するネットショップを運営している。</p>
<p><b>トゥエンデ</b> 米澤真奈美 &lt;タンザニア/理数科教師/1994(平成6)年度2次隊&gt;</p>	<p>【タンザニア】タンザニア産のコーヒーや布などの販売を通じた同国の障害者への支援および異文化理解ワークショップなどに取り組む。</p>
<p><b>NPO法人日本・バングラデシュ文化交流会</b> 松本智子(旧姓 佐藤) &lt;バングラデシュ/野菜/1981(昭和56)年度2次隊&gt;</p>	<p>【バングラデシュ】バングラデシュ・ジョソール県シャジャ郡の農村で、地域住民参加による持続可能な大豆入り学校給食、大豆食品生産、農村女性の収入向上のための伝統刺しゅう製品生産を行う。</p>
<p><b>BUCKLE COFFEE (バックル コーヒー)</b> 石山俊太郎 &lt;東ティモール/コミュニティ開発/2014(平成26)年度2次隊&gt;</p>	<p>【東ティモール】東ティモール、ブルンジ、パナマなど世界のコーヒー豆を自家焙煎し販売する。最高品質の「スペシャルティコーヒー」と呼べる商品だけを扱う。元々が町工場ということもあり、町工場を使う建材などを使用し建築した店舗となっている。</p>
<p><b>Vanilla House (バニラ・ハウス)</b> 小瀬 一徳 &lt;バブアニューギニア/製材/1993(平成5)年度2次隊&gt;</p>	<p>【バブアニューギニア】バブアニューギニアで栽培されたバニラビーンズやカカオ豆などの農産物やその他加工食品の輸入・販売を行う。</p>
<p><b>バヌアツ・ナバンガ ピキニニ友好協会</b> 仲 誠一 &lt;SV/バヌアツ/観光業/2005(平成17)年度0次隊、SV/ミクロネシア/観光業/2012(平成24)年度4次隊&gt;</p>	<p>【バヌアツ】日本の子どもとバヌアツの子どもをつなぎ、写真展や児童画展の開催、日本とバヌアツの小学校をZoomで結び、子どもたちが触れ合い共に学ぶ。</p>
<p><b>NPO法人パシフィカルネサンス</b> 長岡拓也 &lt;ミクロネシア/考古学/1991(平成3)年度1次隊&gt;</p>	<p>【ミクロネシア連邦を中心とした大洋州】大洋州の島々で消滅の危機にある伝統文化を未来に伝えるため、歴史文化遺産の記録・継承・教育を支援する活動を進めている。</p>
<p><b>有限会社バンベン</b> 坂本 毅 &lt;中華人民共和国/日本語教師/1991(平成3)年度1次隊&gt;</p>	<p>【中華人民共和国】中華人民共和国・内モンゴル自治区オルドスの砂漠緑化支援を目的に、同地産の岩塩や重曹などの販売を行う。現地では、植林のほか、有機肥料の生産や高付加価値農業の導入など環境と経済の好循環モデルづくりを行っている。</p>
<p><b>一般社団法人 WITH PEER</b> 松尾雄大(セネガル/小学校教育/2016年度2次隊)</p>	<p>【セネガル】スポーツを通じて「障害」課題を解決する仲間「PEER。」と共に、障害者のエンパワメントと社会参加を促進。ユニバーサル、パラスポーツをきっかけに人材育成と共生コミュニティづくりを行うほか、日本のパラリンピアンと現地の障害者の対話の機会づくりにも取り組む。</p>
<p><b>ベレケの村</b> 五十嵐大介 &lt;キルギス/家畜飼育/2009(平成21)年度3次隊&gt; 五十嵐早矢加 &lt;キルギス/村落開発普及員/2010(平成22)年度3次隊&gt;</p>	<p>【キルギス】千葉県南房総市の「ベレケの村」にて、キルギスで食用や薬用としてなじみの深いキンセンカを栽培。それを材料にしたオーガニックコスメやハーブティーなどを生産・販売。キルギスで手作りされた羊毛フェルト商品の輸入販売。</p>
<p><b>一般社団法人Bokk Jambaar (ボック・ジャンパール)</b> 藤原真実(旧姓 土久岡) &lt;セネガル/小学校教諭/2010(平成22)年度3次隊&gt;</p>	<p>【セネガル・日本(兵庫県神戸市)】村落部における地域住民への保健教育、学校の学習環境改善、女性の収入向上活動のサポートに取り組む。2021年度より日本国内でもセネガルの魅力を発信しながら「人とのつながり」を感じられる場所づくりを行っている。</p>
<p><b>株式会社豆乃木</b> 杉山世子 &lt;シンパブエ/ソフトボール/2000(平成12)年度1次隊&gt;</p>	<p>【メキシコ】メキシコのマヤ先住民が無農薬・無化学肥料で栽培する「マヤビニックコーヒー」などの輸入・販売を行う。</p>
<p><b>認定NPO法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金</b> 藤掛洋子 &lt;パラグアイ/家政/1992(平成4)年度2次隊&gt;</p>	<p>【パラグアイ、日本(横浜・福岡)】パラグアイの農村部やスラムを中心に教育・生活支援や、ジェンダー課題解決にも取り組む。2020年度より日本国内でも困難な経済状況下にある子どもたちや女性を対象に活動を開始。</p>
<p><b>WATATU 株式会社</b> 岡本龍太(タンザニア/コミュニティ開発/2017年度4次隊)</p>	<p>【タンザニア】タンザニアの小規模農家に対し、農業資材の提供、栽培指導、販売先の確保を行い、収益を分配し合うビジネスを展開。農家の農業機会の創出、収入向上につなげている。また、日本の中小企業の海外進出や協力隊OVの就職支援なども行う。</p>
<p><b>NPO法人Rehab-Care for ASIA (リハ・ケア・フォー・アジア)</b> 國谷昇平 &lt;タイ/作業療法士/2015(平成27)年度1次隊&gt;</p>	<p>【アジア地域】高齢化が進むアジア諸国でリハビリテーションや介護の仕組みづくりに取り組む。保健・医療分野の協力隊経験者などがそれぞれの派遣国におけるプロジェクトのリーダーを務めている。</p>
<p><b>野毛坂グローバル</b> 奥井利幸 &lt;タイ/コンピュータ技術/1987(昭和62)年度1次隊、タイ/コンピュータ技術/1989(平成元)年度9次隊&gt;</p>	<p>【タイおよび周辺国】多文化共生、青少年活動、高齢者ケアなどの分野で、日本と途上国のコミュニティのネットワークによる相互の学び合い活動を実施。それにより、相互の発展および「誰ひとり取り残さない」社会の実現を目指す。</p>



# 大阪を拠点にPNG隊員グループが発足 「ワントク」のつながりを広げたい



お読みください  
近江竜也さん <パプアニューギニア/青少年活動/2014(平成26)年度3次隊・大阪府出身>

2023年7月、パプアニューギニア(以下、PNG)OVの有志が主催し、PNGに関するテーマに特化したオンラインの国際協理解セミナーを行った。セミナーは青年海外協力隊大阪府OB・OG会(以下、大阪府OB・OG会)との共催で、20年11月の初開催から数えて3回目となる。今回のセミナーに際し、有志の集まりはグループとしての形をより明確にするため「ワントク パラダイスの会(仮)」の名称を掲げた。

『ワントク』とは英語のワン・トーク(一つの言葉)に由来するビジン語で、同じ言葉や文化を共有する集団・仲間を意味します。OVや派遣中の隊員、これから協力隊に応募してPNGへ行く人も含めて、PNGに関わる人たちをつなげていきたいとの思いを込めました」と話すのは、元PNG隊員で、大阪府OB・OG会に所属する近江竜也さんだ。

元々、有志のセミナー活動は、コロナ禍で一斉帰国して待機中のPNG隊員に活動の場を設けようと、近江さんらが支援を検討したことから始まった。その当時、大阪府OB・OG会メンバーの高森靖さん<スリランカ/環境教育/2009(平成21)年度4次隊>が19年から企画調査員(ボランティア事業)としてPNG事務所に赴任しているなど、大阪府OB・OG会とPNGのつながりも多かった

ことから、大阪府OB・OG会の下でPNGセミナーを行う運びとなった。

第1回ではOVに加え、一斉帰国して待機中の感染症・エイズ対策隊員が登壇してPNGでの活動について発表。以降、第2回では観光をテーマにPNGの旅行会社に勤務するOVが登壇したり、今回の第3回では任期終了後もPNGと交流し続けているOV3人が自身の経験談を紹介したりと、毎回テーマを工夫し、協力隊関係者に限らず、PNGに関心を持つ人に広く門戸を開いて情報を発信してきた。

「PNGの場合、まだまだ日本からは現地情報を得にくい現状があります。しかし、観光地や自然環境、伝統文化など魅力の多い国なので、隊員が持つ情報を一層発信できればいいですね」

ワントク パラダイスの会(仮)は大阪府OB・OG会の分科会という位置づけで活動していることもあり、関西という地域にちなんだ取り組みにも目線が向いている。

「第3回セミナーの際に実施した懇親会では、25年の大阪・関西万博に向け、対面式で何か活動ができるのではないかと声も出ました。徐々に人を巻き込みつつ、各自ができることを緩くつなげて取り組んでいければと思います」



2022年4月の協力隊まつりの関西会場で大阪府OB・OG会のブースを訪ねた人(左)が、協力隊に合格してPNGへ派遣されることに。「OV会を通じて縦のつながりができ、今後のセミナーにも協力してもらえるといい」と大阪府OB・OG会メンバーの高森さん(右)

## ▼第3回PNGセミナーに登壇したPNGのOV

**大野政義さん**  
<体育/1984(昭和59)年度1次隊、SV/体育/1987(昭和62)年度0次隊>  
隊員経験後、国連機関やJICAでPNGなど各国での業務に従事し、現在はアジア開発銀行PNG事務所に勤務。セミナーでは自身のキャリアについて話した。

**笹瀬正樹さん**  
<小学校教育/2014(平成26)年度3次隊>  
帰国後に教育系NGOの業務でタンザニアへ赴任。独自に一般社団法人Wakwak for Everyoneを設立して異文化理解や教育などの活動にも努め、セミナーでは2023年6月から7月にかけて再訪したPNGでの活動を報告した。

**服部晃平さん**  
(理科教育/2017年度3次隊)  
帰国後、「パパ服部」のペンネームでブログ・コミックエッセイの執筆を始め、現在は漫画家として活動中。セミナーの全体司会を務めたほか、自らの体験を交えてPNGという国の紹介も行った。

# JICA INFORMATION

## JICA国内拠点

全国15カ所にあるJICA国内拠点では、JICA海外協力隊経験者を対象とする就職・キャリアアップ・スキルアップのためのセミナーや、国際協力に関連する各種セミナーなどを開催しており、国際協力関連の資料なども閲覧できます。また、全国3カ所にあるJICAの「地球ひろば」では、世界のさまざまな課題や途上国と私たちとのつながりを体感できます。

※各拠点の所在地・連絡先などは下記ウェブサイトをご覧ください。

### ■JICA「国内のJICA拠点」

▶ <https://www.jica.go.jp/about/basic/structure/domestic/index.html>

### 【国内拠点】

名称	所轄地域
①JICA北海道(札幌)	北海道(道央・道北・道南)
②JICA北海道(帯広)	北海道(道東)
③JICA東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
④JICA二本松	福島県
⑤JICA筑波	茨城県、栃木県
⑥JICA東京	東京都、千葉県、埼玉県、群馬県、長野県、新潟県
⑦JICA横浜	神奈川県、山梨県
⑧JICA駒ヶ根	長野県
⑨JICA北陸	富山県、石川県、福井県
⑩JICA中部	静岡県、岐阜県、愛知県、三重県
⑪JICA関西	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
⑫JICA中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
⑬JICA四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
⑭JICA九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
⑮JICA沖縄	沖縄県

### 【地球ひろば】

名称	所在地
①JICA地球ひろば	東京都新宿区
②なごや地球ひろば	愛知県名古屋市
③ほっかいどう地球ひろば	北海道札幌市

## JICA海外協力隊OV(OB・OG)の皆様へのお願い ～青年海外協力隊事務局より～

### 連絡先変更・情報提供のお願い

青年海外協力隊事務局では、帰国されたJICA海外協力隊の皆様との関係を保ち、情報を共有したり、ご意見をお聞きしたりすることがよりよい事業を行う上で重要だと考えています。そのため、住所変更などが生じた場合は、「住所変更届・進路現況連絡票」(下記ウェブサイトよりダウンロード可能)のご提供をお願いします。年に1度、OV向け『クロスロード』をお送りする際にも重要な情報になりますので、ご協力をお願いします。また、皆様の周りで連絡先を変更された方がおられましたら、「住所変更届・進路現況連絡票」のご案内をお願いします。なお、メールや電話、郵便などで、事業の改善や見直しに関するアンケートへのご協力や、海外協力隊OVの方のご紹介をお願いすることもありますので、その際にもご協力をお願いします。

### ■住所変更届・進路現況連絡票

▶ <https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/procedures/documents>

### ■各種届出の提出先/問い合わせ先

▶ [jvtpc-sinrosien1@jica.go.jp](mailto:jvtpc-sinrosien1@jica.go.jp) (青年海外協力隊事務局 人材育成課)

### 2024年度応募勸奨へのご協力をお願い

より多くの方にJICAボランティア事業を知っていただくために、皆様の力をお貸しください!お勤め先、ご友人のお店、町内会掲示板などへのポスターの掲示にご協力いただける方は、最寄りの国内拠点にご連絡ください。



募集ポスター例(デザインはお送りするポスターと異なります)

■送付物:2024年度募集広告用ポスター(B3サイズ=364mm×515mm)

■送付時期:2024年4月以降(折り畳んだ状態でお送りします)

■申し込み・問い合わせ先:

左記の【国内拠点】より最寄りの拠点にご連絡ください。

■ご連絡いただく内容

件名:2024年度募集ポスター申し込み

本文:①お名前、隊次、派遣国、職種 ②ご送付先(日本国内のみ)

③ご希望枚数(お1人3枚まで)

※送付枚数が上限に達した時点で、受け付けを締め切らせていただくこととなりますのでご了承ください。

## 企画調査員(ボランティア事業)の公募が開始されます

2023年度第2回公募が12月中旬より開始される予定です。企画調査員(ボランティア事業)はJICAの在外拠点において、主にJICAボランティア事業に携わり、JICA海外協力隊の活動全般をサポートしていただきます。皆様のご応募をお待ちしております。



■募集期間(予定):2023年12月中旬～24年1月上旬

■募集人員:38名程度

■契約期間:2024年10月～25年3月より2年間

## クロスロード

発行日 2023年12月

編集・発行:独立行政法人国際協力機構  
青年海外協力隊事務局  
〒100-0004東京都千代田区大手町1-4-1竹橋合同ビル

制作協力:一般社団法人協力隊を育てる会『クロスロード』編集室  
〒101-0052東京都千代田区神田小川町3-28-7昇龍館ビル2階  
編集:干川美奈子 飯淵一樹 阿部純一  
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン:(株)AND  
印刷・製本:弘報印刷(株) 校正:佐藤智也

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください。▶『クロスロード』編集室 [crossroads@sojocv.or.jp](mailto:crossroads@sojocv.or.jp)



トンガと日本をつなぐクジラをモチーフとし、クジラの腹部には両国の伝統文様であるクベン柄と七宝文様を描いている。また、海に浮かぶ太陽を背景に、'Ofa(愛、ハート)をクジラの潮吹きで表現している。ロゴの色は、両国の国旗の色である赤と白、そしてJICAとJICA海外協力隊のイメージカラーである青を利用した(尾上香織さん作成)



トンガOV会

①2023年4月に行われた協力隊まつりで、在日トンガ王国特命全権大使デヴィタ・スカ・マンガシ閣下を囲んでの1枚。本記事寄稿者の山屋さんは前列右端、尾上さんは前列左から2番目 (Photo=阿部純一・本誌)

# 祝！周年OV会

2023年に周年を迎えた4団体のOV会代表者にご寄稿と画像のご提供をお願いしました。今後、周年を迎えるOV会の皆様もぜひ編集室へ情報をお寄せください！ mail ▶ [crossroads@sojocv.or.jp](mailto:crossroads@sojocv.or.jp)



KESTES

④KESTES創立40周年記念ロゴ。イラストレーター タケダミホとして活躍中の武田美穂さん<ケニア/環境教育/2009(平成21)年度3次隊>によるもの ⑤グローバルフェスタJAPAN2023のKESTESのブース (Photo=ホシカワミナコ・本誌) ⑥KESTES創立40周年記念パーティの様子

# 祝



JICA 海外協力隊幼児教育ネットワーク

②記念講演会の講師である馬場繁子OV(右から2人目)と障害児施設の先生方(青色のサリー)とネットワークメンバー (Photo=ホシカワミナコ・本誌) ③講演会前の定例総会に参加した会員 (スクリーンはオンライン参加の会員)



バングラデシュ OVの会

⑦バングラデシュ OVの会のメンバー ⑧バングラデシュ50周年記念パーティの様子。登壇しているのは元語学講師のアザド (Munshi K. Azad) 先生 (Photo=飯淵一樹・本誌)



KESTES

## 創立40周年記念パーティ開催の報告

グローバルフェスタJAPAN2023の初日9月30日(土)の夜に、浜松町のアフリカ料理店「カラバッシュ」にて、KESTES (KENYA STudents' Educational Scholarship, ケニアJICA海外協力隊有志で組織する奨学金給付団体) 創立40周年記念パーティを開催しました。1983年の創立時のメンバーであった吉岡邦子OV (旧姓 佐久本) <ケニア/理科教師 / 1983 (昭和58) 年度3次隊>にご出席いただくと共に、肥後博之OV<ケニア/理科教師 / 1982 (昭和57) 年度3次隊>にもオンラインでご参加いただき、発足当時の貴重なお話を伺いました。お二人のお話の中で印象的だったのは、KESTESの活動がこんなに何十年も後まで続くとは、当時は思いもなかったということでした。ケニアの歴代隊員の頑張りがあったのももちろんのこと、日本窓口を設立して、ケニアと日本の両方から奨学生を支えていく体制をつくってきたことが、息の長い活動になったのではないかと、という意見に大いに納得しました。小規模な会ではありましたが、それぞれのメンバーの思い出話から、40年前から現在までのケニアの変化を感じることにできる有意義な会になったと思います。次は50周年で集まることを約束し、40周年記念パーティは幕を閉じました。



KESTES日本窓口代表 加賀瀬 悠 (ケニア/環境教育 / 2019年度3次隊)

JICA 海外協力隊幼児教育ネットワーク

## 創設30周年記念行事を開催しました

1993年に故前田美知子技術専門員の呼びかけで創設された幼稚園教員・保育士隊員の職種別OV会、JICA海外協力隊幼児教育ネットワークは今年30周年を迎えました。この記念行事として6月25日に、会員の馬場繁子OV<スリランカ/幼稚園教諭 / 1986 (昭和61) 年度3次隊>が主宰するスリランカのNGO「スランガニ」の、30年にわたる活動をお話いただきました。同行した障害児施設の先生方からは、馬場OVへ向けた涙ながらの感謝の気持ちなどが語られ、会場は温かい雰囲気になりました。派遣国はさまざまで隊次の幅も広いですが、会場には全国から多くの会員が集まり、交流を深めることができました。協力隊活動を通して経験してきたこと、感じてきたことに共感し合い、その思いを語り継いできた会の30年間の重みを感じられる行事となりました。これからも保育の学びや情報交換、社会貢献活動などを行いつつ、世界の子どもの幸せを語る会として、活動を続けていきたいと思います。



会長 久保田美幸 (旧姓 小林) <マレーシア/保育士 / 1989 (平成元) 年度3次隊>

トンガOV会

## 派遣 50周年を機にOV会発足

トンガは今年でJOVCV派遣50周年を迎えました。せっかくの記念すべき年に何かできないかということで、今年4月JICA地球ひろばで開催された協力隊まつり2023にて、派遣隊次の異なるトンガOVが複数集い、トンガOV有志の会としてトンガブースを出展しました。同まつりで行った「トンガJOVCV50周年を祝おう!」では、在日トンガ王国特命全権大使デヴィタ・スカ・マンガシ閣下にもご臨席を賜り、新旧6名のOVがそれぞれ活動当時の経験や思い出などを発表。大使からもお言葉を頂き、大変有意義な機会となりました。そこから、今後も発展的にOV同士がつながり、さらには在日トンガ人の方々と広く関わられるようにという思いも込めて、トンガOV会の発足を検討し始めました。そして、トンガにて50周年記念式典が行われることにあわせて、11月23日に正式に発足いたしました。これまで歴代の隊員の方々がトンガと築いてこられた伝統と歴史に感謝すると共に、これからますますトンガと日本の交流が発展していくことを願っています。

仮設のトンガ派遣50周年記念ウェブサイトはこちら▶



山屋頼子 (旧姓 岸田) <トンガ/日本語教師 / 1994 (平成6) 年度2次隊、SV / 1998 (平成10) 年度9次隊、SV / 1999 (平成11) 年度9次隊> 近藤麻衣子 <トンガ/日本語教師 / 2008 (平成20) 年度4次隊、2011 (平成23) 年度9次隊> 尾上香織 (トンガ/音楽 / 2017年度1次隊)

バングラデシュ OVの会

## 派遣50周年の年に派遣再開。櫂をつなぐ

バングラデシュ OVの会は1991年に発足された、青年海外協力隊バングラデシュのOB・OGで組織された会です。現在までの活動は、サイクロンシェルター建設のためのフィージビリティスタディ(※)、在日バングラデシュ人へのサポート、「協力隊まつり」「グローバルフェスタ」などの国際協カイベントへの出展、OB・OG間の親睦などです。最初に派遣された1973年は独立した71年からわずか2年しかたっていない、まだ混乱の続く中でした。その時代より隊員たちは次の隊員たちへとその櫂を引き継ぎ、今年派遣から50周年を迎えます。途中2016年には首都ダッカで日本人も巻き込まれたテロ事件が起こり、その影響で協力隊の派遣は中止となっていました。しかし、この節目の年にJICA海外協力隊として再派遣が決まり、その櫂は昭和から平成、そして令和の隊員へ引き継がれました。当会は引き続き、バングラデシュとの関係を深めていきたいと思います。

※実現可能性を調査・検証すること。



会長 佐藤利哉 <バングラデシュ/農業協同組合 / 1981(昭和56) 年度1次隊>

# 懐かしの JICA 海外協力隊 グッズ写真館

このページではOVの方々から寄贈・お貸し出しいただいた懐かしグッズを紹介します。

Text=阿部純一(本誌) Photo=阿部純一(ブレザー、バッグ)  
干川 修(寒暖計、創設20年記念切手)

ブレザーも  
バッグも  
かっこいい!



## 1970年代? ブレザー

爽やかな紺色のブレザーは野村一成さん<マラウイ/養鶏/1978(昭和53)年度3次隊>からの寄贈品。

協力隊員の  
活躍が切手に

## 1960年代 寒暖計

おしゃれな装飾が施された寒暖計は伊藤嘉一さん<フィリピン/上下水道/1967(昭和42)年度2次隊、SV/タイ/行政サービス/2008(平成20)年度9次隊>からの寄贈品。「日本青年海外協力隊」の名称は1974年まで使われていた。50年以上たった今でも正確に気温を表示している。

## 1985年 創設20年記念切手

青年海外協力隊の創設20年を記念して、1985(昭和60)年10月に郵政省が発行した切手。当時は37カ国で5,646人の隊員が活動していた。切手の画像提供は、協力隊グッズコレクターの大塚善久さん<マラウイ/村落開発普及員/2006(平成18)年度3次隊>。

青年海外協力隊  
創設20年記念



## 1968年 若い力の歌

青年海外協力隊が発足した3年後の1968年に初披露された協力隊歌「若い力の歌」のレコード。作製の発端は「隊員の心をつなぐ隊歌が欲しい」との声が訓練生の中から上がったことだった。写真は日本コロムビア株式会社が製作した同曲のソノシート。



## レコード

2枚とも(一社)協力隊を育てる会所蔵



## 1985年 地球色の日焼け

1985年、協力隊発足20周年を記念して製作されたイメージソング「地球色の日焼け」のシングル盤レコード。歌詞は一般公募され、606点の応募から松兼 功さんの作品が選ばれた。武田鉄矢氏の歌唱でポリドール株式会社が製作したレコード。

## 1980年代? 医薬品バッグ

加藤由貴さん<マラウイ/写真/1989(平成元)年度1次隊>所有の医薬品バッグ。大きさは幅40×高さ25×奥行き14センチあり、「FIRST AID KIT・JAPAN OVERSEAS COOPERATION VOLUNTEERS.」の文字がプリントされている。中には、解熱鎮痛剤、胃腸薬、虫下しなどの内服薬、消毒、シブ薬などの外用薬、包帯、体温計などの衛生用品が入っており、このバッグ一つあればあらゆる病気やけがの初期対応ができる心強いもの。その後、医薬品は袋に入れて配布されるようになり、現在は廃止されている。

## 切手

## 1969年 ラオスの記念切手

竹工芸隊員の岐部朝光さん<1966(昭和41)年度3次隊>が首都・ビエンチャンの工芸学校で、高い技術をもって生徒たちに指導している姿を图案化したラオスの切手。ILO(国際労働機関)の50周年を記念してラオス郵政省が発行した。(切手画像提供:切手の博物館(東京・目白))

